

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査

飯田市の結果分析報告書



2017 年 12 月 12 日

飯田市教育委員会学校教育課

目 次

I	調査の実施状況	3
II	教科に関する飯田市の調査結果について	5
1	平成 29 年度の調査結果	
	□小学校調査	5
	・正答数分布グラフ（国語A、国語B、算数A、算数B）	
	□中学校調査	7
	・正答数分布グラフ（国語A、国語B、数学A、数学B）	
2	教科に関する対象学年の学力水準の推移	9
3	各教科の設問別正答率と指導改善の方向	10
III	質問紙調査の回答からみえる飯田市の分析結果について	26
1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関して	26
2	小中連携・一貫教育の効果に関して	28
	(1) 「飯田市学力向上『結い』プラン」の検証	
	(2) 小中学校の連携について	
3	家庭学習の内容や方法に関して	33
	(1) 児童生徒の実態	
	(2) 学校質問紙の回答にみる家庭学習に関する学校の指導	
4	基本的な生活習慣と日常生活に関して	36
5	地育力による学校支援・学習支援に関して	39
	(1) 児童生徒の地域へのかかわりについて	
	(2) 地域の学校支援・学習支援について	
IV	改善に向けた今後の取組について	42

I 調査の実施状況

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日 平成29年（2017年） 4月18日（火）

3 対象学年 小学校第6学年 中学校第3学年

4 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

- ・主として「活用」に関する問題

知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

（2）質問紙調査

- ・児童生徒に対する質問紙調査（小学校 92問、中学校 94問）
- ・学校に対する質問紙調査（小学校111問、中学校109問）

5 平成29年4月18日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】

	実施学校数	児童数
飯田市（公立学校）	19校	833人
長野県（公立学校）	365校	17,609人
全 国（公立学校）	19,577校	999,723人

【中学校調査】

	実施学校数	生徒数
飯田市（公立学校）	9校	885人
長野県（公立学校）	186校	18,098人
全 国（公立学校）	9,631校	982,811人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

6 分析と今後の取組

(1) 教育問題検討委員会による分析

- ・校長（2名）、教頭（4名）、分析サポーター（4名）、事務局（3名）で構成する検討委員会を設置して調査結果を分析し、課題と改善の方向を検討
- ・飯田市全体の分析結果を報告書にまとめ、教育委員会定例会、理事者、部長会、社会文教委員会に報告し、校長会、教頭会で授業改善に生かすよう指導

(2) 推進日程と今後の取組

	9月	10月	11月	12月
飯 田 市 教 育 委 員 会	生活実態(質問紙調査結果)について ■教育委員会定例会で報告説明（9/12） ■理事者等に報告説明 [教育問題検討委員会] [分析サポーターの委嘱と分析] ・委嘱 7月20日 ・分析 9月1日～22日 - 第2回 10月4日（水） - 第3回 10月26日（木） - 第4回 1月25日（木）	■生活実態について公表	学力調査結果と質問紙調査結果を合わせた分析結果と課題に対する改善策 ■教育委員会定例会で報告説明（11/16） ■市校長会で説明と指導（11/21） ■理事者、部長会で報告説明	■市教頭会で説明と指導（12/11） ■社会文教委員会で報告説明（12/12）

(3) 改善に向けた取組

- ・教育問題検討委員会は、飯田市教育委員会が所管する学校の課題や取組の成果を分析し、改善に向けた取組が進むよう提言する。
- ・提言を受け、市教委と学校は成果や改善の方向性を共有し、学校の改善に向けては校長と教頭がマネジメントし、教職員へ指導する。
- ・市教委は教育問題検討委員会の提言を受けた施策の立案と協議を行う。

(4) 保護者への説明と児童生徒への指導改善

- ・全校の保護者、該当学年の保護者等公表の対象を問わず、学校の立場で説明を行う。
- ・調査の目的を明示し、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題の調査結果は、分析結果を踏まえた今後の改善方策等を分かりやすく説明する。
- ・自校の結果については、教育上の効果や影響等を考慮し、単に学校単位での平均正答数や平均正答率などの数値は出さない。
- ・各児童生徒個人の調査結果については、全般的な学習状況の改善等（例：補充・補完指導等）につなげることが重要であることに留意し、個人票の返却など効果的に活用する。

Ⅱ 教科に関する飯田市の調査結果について

学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、文部科学省と同じように、平均正答数については小数点第1位、平均正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

1 平成 29 年度の調査結果

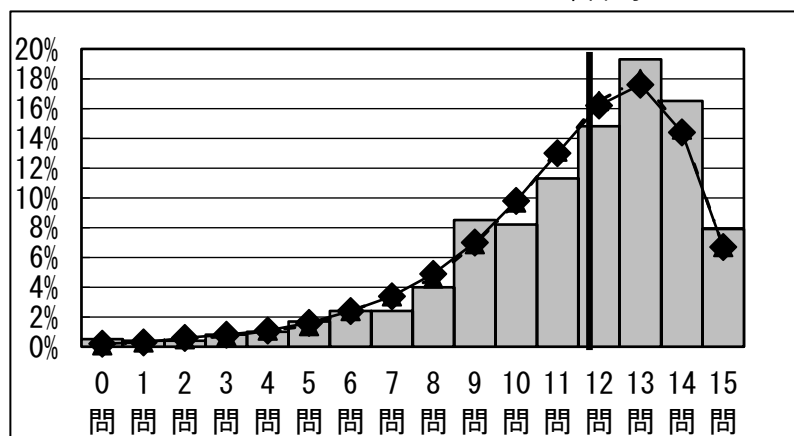
【小学校調査】

域区分	調査教科	平均正答率	◎：全国平均正答率より高い ◎ > 1 ○：全国平均正答率と同水準 -1 ≤ ○ ≤ 1 △：全国平均正答率より低い △ < -1
飯田市 (公立)	国 語	A ○ B ○	
	算 数	A ○ B ○	
域区分	調査教科	平均正答率	平均正答数
長野県 (公立)	国語 A	75	11.3 問/15 問
	国語 B	57	5.2 問/ 9 問
	算数 A	78	11.8 問/15 問
	算数 B	46	5.0 問/11 問
全 国 (公立)	国語 A	75	11.2 問/15 問
	国語 B	58	5.2 問/ 9 問
	算数 A	79	11.8 問/15 問
	算数 B	46	5.1 問/11 問

<正答数分布グラフ>

〔国語 A〕

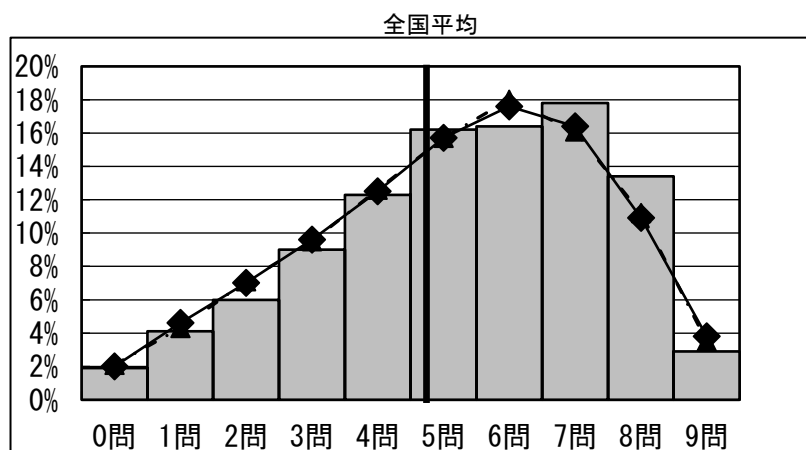
設問数
15 問



◆ ▲ 棒
グラフ
:
全 長 飯
国 野 田
市

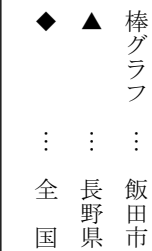
〔国語 B〕

設問数
9 問

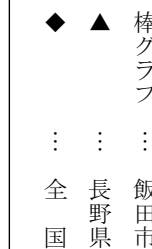


◆ ▲ 棒
グラフ
:
全 長 飯
国 野 田
市

設問数
15問



設問数
1 1 問



- 6 —

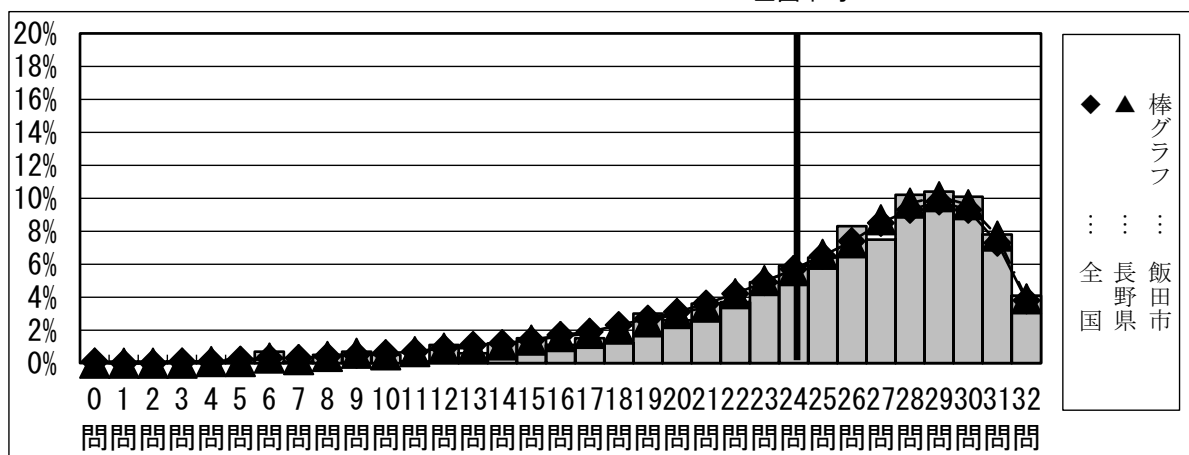
【中学校調査】

域区分	調査教科	平均正答率	◎：全国平均正答率より高い ◎ > 1 ○：全国平均正答率と同水準 -1 ≤ ○ ≤ 1 △：全国平均正答率より低い △ < -1
飯田市 (公立)	国 語	A ◎ B ○	
	数 学	A ○ B △	
域区分	調査教科	平均正答率	平均正答数
長野県 (公立)	国語 A	78	25.0 問/32 問
	国語 B	72	6.5 問/ 9 問
	数学 A	64	23.1 問/36 問
	数学 B	48	7.2 問/15 問
全 国 (公立)	国語 A	77	24.8 問/32 問
	国語 B	72	6.5 問/ 9 問
	数学 A	65	23.3 問/36 問
	数学 B	48	7.2 問/15 問

<正答数分布グラフ>

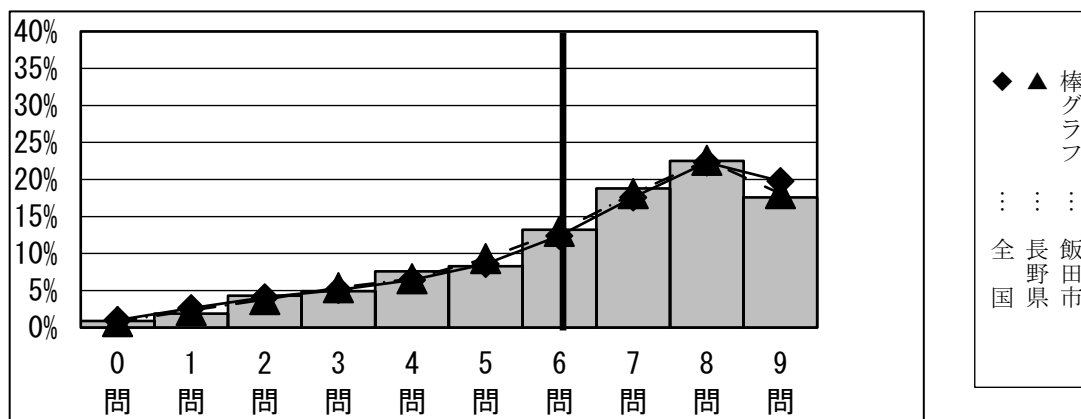
〔国語 A〕 設問数 32 問

全国平均



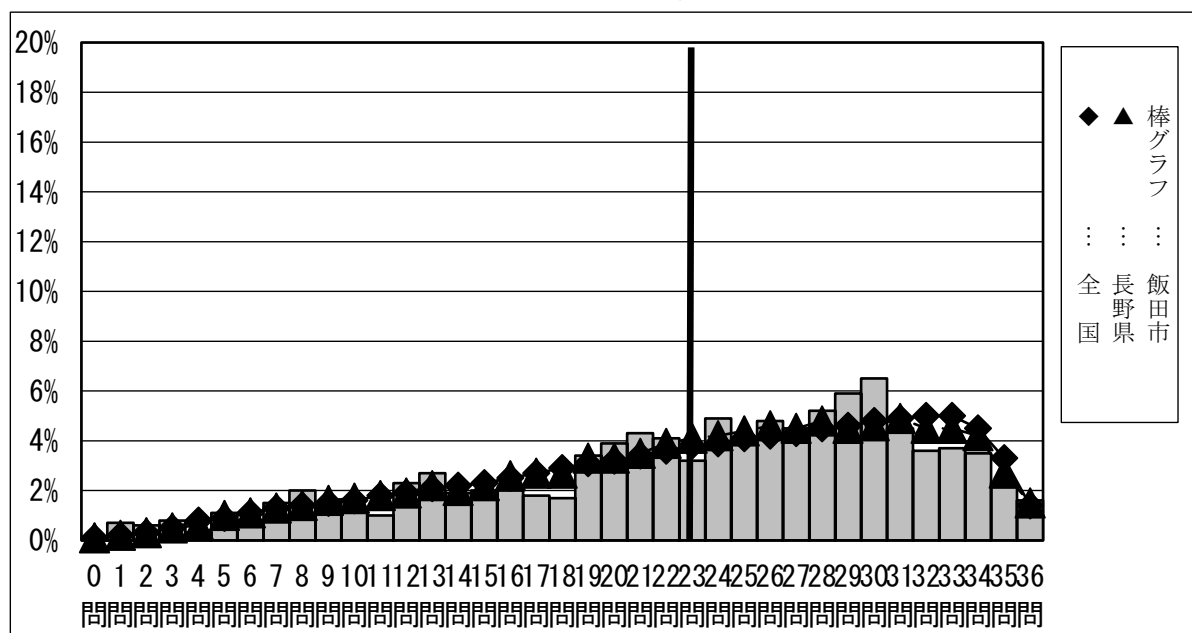
〔国語 B〕 設問数 9 問

全国平均



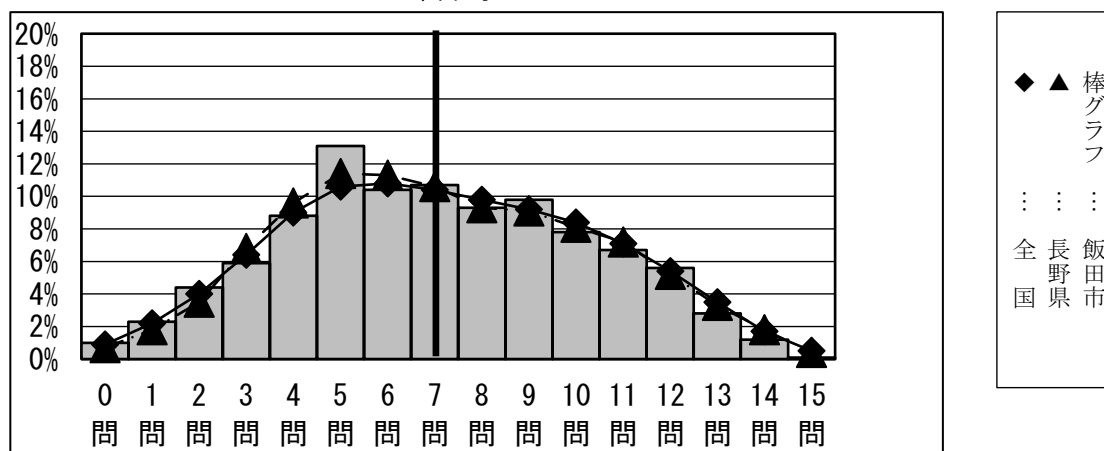
[数学A] 設問数 36問

全国平均



[数学B] 設問数 15問

全国平均



- 中学校では、国語が全国平均を上回るか同水準であり、数学は全国平均をやや下回る結果となった。
- 国語Aの正答数の分布状況は、全国や長野県とほぼ同じ傾向であるが、中間層の割合がやや少ない。国語Bの正答数の分布状況も、全国や長野県とほぼ同じ傾向であるが、上位層の割合が少ない。
- 数学Aの分布状況は、全国や長野県と同じ傾向にあるが、下位層から中位層の割合がやや高い。数学Bの正答数の分布状況は、全国や長野県と比べ、上位層より下位層の割合が高い。

2 教科に関する対象学年の学力水準の推移

全国学力・学習状況調査は平成 19 年度から悉皆調査として始まったが、途中、抽出調査方式（H22 年度、H24 年度）になったり東日本大震災の影響等（H23 年度）を考慮し見送ったりした経過がある。しかし、飯田市は平成 24 年度から悉皆調査として毎年実施し、調査結果を累積してきた。

そこで、小学校第 6 学年で受検した児童が中学校第 3 学年の調査結果と比較した場合に、どのような推移が見られるか検証することとした。下表[表 1]は、その状況を示している。

[表 1]「全国学力・学習状況調査」にみる小 6 生が中 3 生になった時の学力水準の推移

教 科	平成 26 年度 (小 6 時)	平成 29 年度 (中 3 時)	小 6 時と中 3 時の差
	学力の水準	学力の水準	学力水準の数値比較
国 語 A	○ + 1	◎ + 2	+ 1
国 語 B	◎ + 2	○ ± 0	- 2
算数・数学 A	○ + 1	○ - 1	- 2
算数・数学 B	◎ + 2	△ - 1	- 3

□国語 A・Bについては、小 6 時の学力水準は「○」と「◎」で全国平均正答率以上であり、中 3 時の学力水準も「◎」と「○」で良好な結果である。良好な結果ではあるが、小 6 時と中 3 時の差を数値で比較すると、国語 A は + 1 と伸びているのに対し、国語 B は - 2 と小 6 以降、十分に伸びていない状況が伺える。

□算数・数学 A・Bについては、小 6 時の学力水準は「○」と「◎」で全国平均正答率以上であったが、中 3 時の学力水準は「○」と「△」で全国平均正答率と同水準に十分至らない状況にある。中学校数学で伸び悩む状況が見られる。特に、算数・数学 B の数値比較では - 3 という昨年度以上の大きな差が見られ、数学の「活用」に課題が伺える。

□全体では、国語 A のみが小学校 6 年時より上昇しているものの、その他は小学校時代に比べるとマイナスとなり伸び悩む事実が浮き彫りになり、昨年と同様な傾向が続き、さらにその特徴が顕著になっている。

□このような特徴は、単に中学校の取組の問題だけではなく、中位層が多く上位層が少ない小学校の傾向が拡大したものとも考えられ、今まで以上に、小中一貫した 9 カ年の取組が必要であることも示唆している。

3 各教科の設問別正答率と指導改善の方向

小学校国語

[※ 表は各教科の設問別集計結果]

< A 冊子 >															
問題番号	1	2		3	4		5		6	7					
		一	二		一	二	ア	イ		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
評価領域等	話す・聞く	書く		読む	読む・伝統的な		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項								
国語への関心・意欲・態度															
話す・聞く能力	○														
書く能力		○	○												
読む能力				○	○	○									
言語についての知識・理解・技能					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全国正答率	69.2	79.7	41.5	74.4	79.4	57.0	90.0	83.6	71.1	42.0	80.0	94.5	88.8	76.8	94.5
飯田市正答率	74.5	80.9	45.2	75.7	82.7	59.0	89.4	84.4	71.2	44.0	81.0	93.7	88.9	76.4	92.9
全国正答率との比較															
	5.3	1.2	3.7	1.3	3.3	2.0	-0.6	0.8	0.1	2.0	1.0	-0.8	0.1	-0.4	-1.6

< B 冊子 >									
問題番号	1			2			3		
	一	二	三	一	二	三	一	二	三
評価領域等	話す・聞く			書く			読む		
国語への関心・意欲・態度			○			○			○
話す・聞く能力	○	○	○						
書く能力			○	○	○	○			○
読む能力							○	○	○
言語についての知識・理解・技能									
全国正答率	77.2	69.2	48.4	70.8	70.9	33.0	75.9	28.0	43.7
飯田市正答率	79.2	73.8	53.8	71.6	72.0	35.3	76.7	27.7	39.4
全国正答率との比較									
	2.0	4.6	5.4	0.8	1.1	2.3	0.8	-0.3	-4.3

小学校国語

問題番号	全国正答率との比較		問 題 の 概 要
A 1		5.3	学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する
A 2 一		1.2	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する
A 2 二		3.7	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する
A 3		1.3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する
A 4 一		3.3	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する
A 4 二		2.0	グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する
A 5 ア	-0.6		ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（三度目の正直）
A 5 イ		0.8	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する（もちはもち屋）
A 6		0.1	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する
A 7 (1)		2.0	漢字を書く（参加たいしょう）
A 7 (2)		1.0	漢字を書く（４年生のきぼう者）
A 7 (3)	-0.8		漢字を読む（申しこみ期限）
A 7 (4)		0.1	漢字を読む（事務室前）
A 7 (5)	-0.4		漢字を書く（箱が置いてあります）
A 7 (6)	-1.6		漢字を読む（指示）
B 1 一		2.0	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する
B 1 二		4.6	グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く
B 1 三		5.4	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く
B 2 一		0.8	【緑のカーテン作りへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する
B 2 二		1.1	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する
B 2 三		2.3	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の〔 イ 〕に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く
B 3 一		0.8	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、〔 A 〕に当てはまる言葉として適切なものを選択する
B 3 二	-0.3		「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する
B 3 三	-4.3		「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く

- 1 読むことの学習で、どの叙述に着目したのかを明確にして、互いの感想や考えを聞き合い、読みを深める学習を積み重ねていく必要があります。
- 2 理由を明確にして自分の考えをまとめるために、複数の場面の叙述を関係づけたり心情や言動の変化をとらえたりして、考えを書いたり発表したりする学習を大切にしましょう。
- 3 漢字は、その意味を考えながら文の中で正しく使えるようにすることが大切です。日常生活でも積極的に漢字を使って文章を書いたり、本や新聞を読んだりする学習を大切にしましょう。

指導改善のポイント

国語の「読むこと」の学習で、教師側から一方的に問いを出し、子どもたちがそれに答えていくことに偏った授業の傾向はありませんか。

物語文の教材であれば「登場人物の気持ちはどうか」という問いをひたすら出し続け、説明文の教材であれば「何がわかるか」のみを問うような授業が行われてしまいがちです。このような国語の授業の課題を改善していく必要があると思われます。

I 国語B ③ー設問三について

1 ねらい

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

- ①「【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書く」ことが求められています。
- ②「取り上げた言葉や文をもとに、どうしてそう考えたのかを書く」ことが求められています。
- ③「制限字数で書く」ことが求められています。

2 解答類型と反応率

	解答類型	反応率 (%)
1	条件①, ②, ③を満たし, 条件①について叙述以外を取り上げているもの	27.8
2	条件①, ②, ③を満たし, 条件①について叙述を取り上げているもの	11.6
3	条件①, ②を満たし, 条件①について叙述以外を取り上げているが, 条件③は満たしていない	0.2
4	条件①, ②を満たし, 条件①について叙述を取り上げているが, 条件③は満たしていない	0.7
5	条件①を満たし, 条件①について叙述以外を取り上げているが, 条件②は満たしていない	22.6
6	条件①を満たし, 条件①について叙述を取り上げているが, 条件②は満たしていない	6.3
7	条件②は満たし, 条件①を満たしていない	1.3
9	上記以外の解答	8.3
0	無回答	21.2

3 考察

- ・解答類型3・4の反応率から、自分の考えたことを制限字数で書くことは、ほとんどの児童ができていたことが分かります。
- ・解答類型5の反応率から、自分の考えを説明するときに【物語の一部】から言葉や文を取り上げることはできていますが、どうしてそう考えるのか理由を説明することができていないことが分かります。
- ・無回答が多いことが分かります。最後の問題であったため、時間が足りなかったと思われます。

4 具体的な指導改善

子どもの問いを大事にして、追究の見通しをもたせるよう学習課題を明確にし、主体的に学び合う学習を設定していきましょう。その際、次の点に留意しましょう。

○根拠や理由を明確にして自分の考えをまとめることに課題が見られます。

→根拠となる文章中の言葉や文を取り上げ、それをもとにどうしてそう考えたのかを明確にして、自分の考えをまとめる学習を大切にしていましょう。

○物語を読み、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られます。

→物語を読んで互いの考えを聞き合う学習を大切にしてみましょう。その際、相手の考えの根拠となる具体的な叙述に着目する必要があります。同じ理由や考えでも異なる叙述が根拠になる場合もあり、同じ叙述でも異なる理由や考えになる場合もあります。

II 全体を通して

○目的や意図に応じて、場に応じた適切な話し方をすることにやや課題が見られます。

→普段から自分が話すときに相手に応じた話し方ができているか意識することが大切です。自分が伝えたいことが伝わっているか、一方的な話になっていないか、練習するときに自分の課題を明確にして友達同士で聞き合う学習を大切にしましょう。

○ことわざの意味の理解と使い方に課題が見られます。→A問題⁵

ふだん接する（聞く・使う）機会が少ないことが原因と考えられます。

→身近で使われていることわざを集める学習を試みるのはどうでしょう。

→日記やスピーチの中にことわざを入れて書いてみるのはどうでしょう。

○漢字の読み書きの定着状況に課題が見られます。→A問題⁷

→学年別漢字配当表に示されている漢字は、単に繰り返し練習するだけでなく、漢字の意味を理解したり様々な場面で実際に使用したりする学習を積み重ねる必要があります。漢字は知っていても音訓両方を理解していないと書けない・読めないことがあります。特にあまり日常で使わない読みを大切にしましょう。

※さらに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」でそれぞれ学習したことを相互に関連させて学習を進めていけるようにしましょう。また、前の単元、前の学年で学習した読み方、書き方、話し方などが、異なる文章や場面でも使えることを、実感したり意識したりできるような学習をしましょう。

小学校算数

A冊子															
問題番号	1			2				3	4	5	6	7	8	9	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)						(1)	(2)
評価領域等	数と計算			数と計算				数と計算	量と測定		図形		数量関係		
技能				○	○	○	○	○					○	○	○
知識理解	○	○	○						○	○	○	○			
全国正答率	96.9	69.9	91.0	85.2	79.7	66.6	69.2	86.2	70.7	67.0	75.5	86.7	83.6	88.0	62.8
飯田市正答率	96.3	64.3	93.2	85.0	77.3	78.4	71.7	87.8	73.1	65.3	81.3	88.2	83.1	86.6	63.7
全国正答率との比較															
	-0.6	-5.6	2.2	-0.2	-2.4	11.8	2.5	1.6	2.4	-1.7	5.8	1.5	-0.5	-1.4	0.9

B冊子											
問題番号	1			2		3		4		5	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
評価領域等	数と計算			数と計算		量と測定・数量関係		数量関係		図形・数量関係	
考え方	○	○	○	○	○		○	○		○	○
技能											
知識理解						○		○			
全国正答率	76.0	81.8	38.6	40.4	27.4	67.9	26.1	39.8	29.3	65.0	13.2
飯田市正答率	78.4	86.8	37.9	42.0	27.3	64.8	32.5	34.7	28.9	64.1	8.6
全国正答率との比較											
	2.4	5.0	-0.7	1.6	-0.1	-3.1	6.4	-5.1	-0.4	-0.9	-4.6

小学校算数

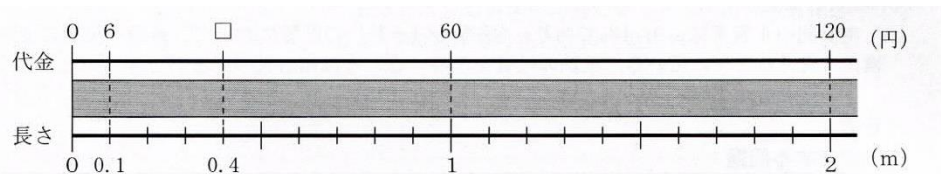
問題番号	全国正答率 との比較	問 題 の 概 要
A 1 (1)	-0.6	リボンを2 m買ったときの代金と3 m買ったときの代金を書く
A 1 (2)	-5.6	買ったリボンの長さと、1 m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ
A 1 (3)	2.2	60×0.4 を、 60×4 を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ
A 2 (1)	-0.2	123×52 を計算する
A 2 (2)	-2.4	$10.3 + 4$ を計算する
A 2 (3)	11.8	$6 + 0.5 \times 2$ を計算する
A 2 (4)	2.5	$5 \div 9$ の商を分数で表す
A 3 (1)	1.6	8と12の最小公倍数を求める
A 4	2.4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ
A 5	-1.7	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ
A 6	5.8	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く
A 7	1.5	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ
A 8	-0.5	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ
A 9 (1)	-1.4	出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ
A 9 (2)	0.9	二次元表の合計欄に入る数を書く
B 1 (1)	2.4	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く
B 1 (2)	5.0	示された考えを基に、 $54 - 45$ の場合で残る部分を図に表す
B 1 (3)	-0.7	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く
B 2 (1)	1.6	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く
B 2 (2)	-0.1	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く
B 3 (1)	-3.1	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ
B 3 (2)	6.4	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める
B 4 (1)	-5.1	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ
B 4 (2)	-0.4	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ
B 5 (1)	-0.9	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ
B 5 (2)	-4.6	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く

- 1 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことができるようにしましょう。
- 2 少数の加法及び減法の計算が確実にできるようにしましょう。
- 3 日常生活の問題の解決のために、測定値を平均する考えを用いて適切に判断したり、示された方法を解釈・表現したりする学習を充実させましょう。
- 4 日常生活の問題の解決のために、分類整理した資料を目的に応じて二次元表に作り直す活動を通して、二次元表の理解を深める活動を充実させましょう。
- 5 身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現する学習を充実させましょう。

指導改善のポイント

- 1 2つの数量の関係を適切に捉えられず、数直線に表されている数量と対応させることができない傾向はないでしょうか。

算数 A [1]—設問(2) 1m当たりの値段が60円のリボンを何mか買う場面において、下のよう
に、テープ図と数直線を合わせた図を用いて、基準量に当たる1に対応する数量が60であ
ること、さらに、2m当たりの代金が120円、0.1m当たりの代金が6円であることを確認した
上で、0.4と□が対応することについて説明しあう活動を設定してみましょう。



- 2 少数と整数の加法及び減法の計算で、位を正しくそろえずに、乗法のように末尾をそろえて計算する傾向はないでしょうか。

算数 A [2]—設問(2) $10.3 + 4$ 10.7や50.3という誤答が見られます。

乗法の性質と筆算を関連づけながら、末尾をそろえて計算する理由を説明する活動が考えられます。また、計算の結果のおよその大きさを見積もり、計算の結果と見積もりの結果が大きく異なっていないかどうかをふり返る活動や、下のよう
に、整数及び少数の乗法と整数及び少数の加法の筆算の仕方を比較する場を設け、筆算について確認する活動なども考えられます。さらに $10.3 + 4$ の誤った計算の結果として10.7を提示して、誤りの箇所を指摘し、計算の仕方をふり返りながら修正する活動を設定してみましょう。

乗法と加法の筆算の比較

乗法の筆算	⇔	加法の筆算
$\begin{array}{r} 103 \\ \times 4 \\ \hline 412 \end{array}$		$\begin{array}{r} 103 \\ + 4 \\ \hline 107 \end{array}$
$\begin{array}{r} 10.3 \\ \times 4 \\ \hline 41.2 \end{array}$		$\begin{array}{r} 10.3 \\ + 4 \\ \hline 14.3 \end{array}$
末尾をそろえて計算する		位をそろえて位ごとに計算する

- 3 飛び離れた数値を除いて平均を求める意味を理解していない傾向はないでしょうか。

算数 B ③一設問(1) 問題文に「2回目の記録を除いて、～」とありますが、2回目の測定値を除くことができず、誤った解答が見られます。

日常生活の問題の解決のために、例えば右のように、平均を求める式を判断する際、飛び離れた数値を除いて平均を求めることが適切かどうかを、場面や状況と関連付けて考察する活動を設定してみましょう。

通学路を歩くのにかかった時間

日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
時間(分)	15	14	30	16	15

※3日目は道路が工事中であった。

通学路を歩くのにかかった時間の平均を求める式

$$(15+14+16+15) \div 4 = 15$$

(飛び離れた数値を除いた理由)

3日目は、道路が工事中で、いつもの通学路を通ることができなかったため除く。

- 4 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを、言葉を用いて記述することに課題がないでしょうか。

算数 B 4一設問(1) 本設問を用いて、「ハンカチ・ティッシュペーパーを持ってきた人数」の表にはハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数がかかれていないことから、「5年生のハンカチ・ティッシュペーパー調べの結果」の二次元表に作り直す活動を設定してみましょう。その際、【さくらさんの式】の意味を二次元表と関連付けて、二つの項目に着目し説明しあいながら、二次元表に数を適切に当てはめることができるようにすることが大切です。

- 5 身近なものに置き換えたときの基準量、比較量、割合の関係を的確に捉えられない傾向がないでしょうか。

算数 B 5一設問(2)：本設問を用いて、「最小の満月の直径」を1円玉の直径に置き換えていること、さらに、1円玉の直径が基準量であることを捉え、「最小の満月の直径」を基にして14%長くなっている「最大の満月の直径」が比較量であることを確認する活動が考えられます。その上で、100円玉と500円玉のどちらが比較量に近いかを判断する際には、「基準量の〇%」と「基準量の〇%増加、減少」の違いを図で表現し比較する活動を設定してみましょう。

また、選んだ硬貨の直径の方が近いと判断した理由を、数量の関係を表す図や基準量・比較量・割合の関係を基に説明する活動も考えられます。基準量から14%長くなっている比較量を求める際には、114%を捉えることができていない 20×1.4 や 20×0.14 のような式を提示し、「 $\times 1.4$ 」や「 $\times 0.14$ 」の意味を問い直す活動も考えられます。

中学校国語

< A 冊子 >																
問題番号	1		2		3		4		5		6		7		8	
	－	－	二	－	二	－	二	－	二	－	二	－	二	－	二	
評価領域等	話す・聞く		書く		読む		書く		読む		話す・聞く		読む			
国語への関心・意欲・態度																
話す・聞く能力		○	○										○	○		
書く能力				○	○			○	○							
読む能力						○	○			○	○				○	○
言語についての知識・理解・技能	○															
全国正答率	81.4	87.8	79.6	86.0	84.3	81.0	72.9	79.8	92.7	74.8	60.1	54.0	80.4	81.9	72.3	
飯田市正答率	82.5	88.5	79.2	84.8	85.2	81.8	72.2	85.1	91.8	77.4	62.4	56.2	80.2	81.4	71.6	
全国正答率との比較	1.1	0.7	-0.4	-1.2	0.9	0.8	-0.7	5.3	-0.9	2.6	2.3	2.2	-0.2	-0.5	-0.7	

[illegible]

＜Ｂ冊子＞										
問題番号		1			2			3		
		一	二	三	一	二	三	一	二	三
評価	領域等	読む		書く・読む・伝授的	話す・聞く		話す・聞く・書く	書く	読む	書く
	国語への関心・意欲・態度			○			○			○
	話す・聞く能力				○	○	○			
	書く能力			○			○	○		○
	読む能力	○	○	○					○	
	言語についての知識・理解・技能			○						
	全国正答率	84.1	84.1	41.4	85.4	74.2	57.6	75.3	78.7	68.8
	飯田市正答率	84.6	85.9	36.9	84.7	76.3	55.1	73.8	79.0	69.9
全国正答率との比較										
		0.5	1.8			2.1			0.3	1.1
				-4.5	-0.7		-2.5	-1.5		

中学校国語

問題番号	全国正答率との比較	問 題 の 概 要
A1一	1.1	画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する
A2一	0.7	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する
A2二	-0.4	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する
A3一	-1.2	それまでががんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す
A3二	0.9	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する
A4一	0.8	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する
A4二	-0.7	文章について説明したものとして適切なものを選択する
A5一	5.3	(立候補者から)の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する
A5二	-0.9	(推薦者から)の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する
A6一	2.6	登場する人物を整理したもの当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する
A6二	2.3	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する
A7一	2.2	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す
A7二	-0.2	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する
A8一	-0.5	詩について説明したものとして適切なものを選択する
A8二	-0.7	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する
A9一1	3.5	漢字を書く(組織のキボを大きくする)
A9一2	10.6	漢字を書く(雨で運動会がエンキになる)
A9一3	4.8	漢字を書く(店をイトナむ)
A9二1	-0.9	漢字を読む(覚悟を決める)
A9二2	1.1	漢字を読む(鮮やかな色合い)
A9二3	1.5	漢字を読む(水が垂れる)
A9三ア	3.8	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)
A9三イ	2.8	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)
A9三ウ	-2.3	適切な敬語を選択する(先生もこの書店をよくご利用になるのですね)
A9三エ	-0.2	適切な語句を選択する(私は映画が大好きです。ただし、映画なら何でも見るわけではありません)
A9三オ	-1.1	適切な語句を選択する(チームの勝利を確信する)
A9四	0.3	言い直した意図として適切なものを選択する
A9五	3.9	話合いの記録として適切な言葉を考える
A9六1	-2.4	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する
A9六2	1.6	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する
A9七1	1.8	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す(あやしう)
A9七2	-5.6	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する
B1一	0.5	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する
B1二	1.8	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す
B1三	-4.5	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く
B2一	-0.7	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する
B2二	2.1	聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する
B2三	-2.5	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す
B3一	-1.5	下書きについての説明として適切なものを選択する
B3二	0.3	太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する
B3三	1.1	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く

- 1 「学力向上『結い』プラン（ねらい・めりはり・見とどけ）」を意識した授業づくりに継続して取り組みましょう。その際に「ねらい（つける力）」を共有し、生徒同士が主体的に見方や考え方を交流できる「めりはり」のある場面を位置づけ、学んだことを実感できる「見とどけ」の時間を必ず確保しましょう。
- 2 多様な情報の中から、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を関連づけたりしながら、自分の考えを表現する学習活動を仕組みましょう。その際、文章の構成や展開、表現の特徴など、既習の言語事項を活用できるように工夫しましょう。
- 3 漢字や文法、古典、書写技能などの言語事項領域の授業では、知識や技能の習得だけではなく、日常生活での活用につながるような授業展開を考えましょう。

指導改善のポイント

生徒が文章を書く際に、根拠を明確にして自分の考え・思いをまとめることや、既習事項の活用、情報選択及び文章構成を意識することをしないままで表現する傾向にありますか。

I 国語B ①一設問三 について

1 ねらい

表現の仕方についてとらえ、自分の考えを表現する力をみる問題として出題

- ・解答の際には、比喩表現が使われている〈印象に残った一文〉を【本の一部】から抜き出すことが求められています。（条件1：既習事項の活用）
- ・〈印象に残った一文〉から、「誰」の「どのような」様子なのかを比喩の言葉を手がかりに表現することが求められています。（条件2：文の解釈）
- ・さらに、自分が感じたことや考えたことを具体的に表現することが求められています。（条件3：根拠を明確にして自分の考えを書く）

2 解答類型と反応率

	解答類型	反応率(%)
1	条件1, 2, 3を満たして解答しているもの	36.9
2	条件1, 2を満たし、条件3を満たさないで解答しているもの	4.5
3	条件1, 3を満たし、条件2を満たさないで解答しているもの	7.8
4	条件2, 3を満たし、条件1を満たさないで解答しているもの	10.1
9	上記以外の解答	26.7
0	無解答	14.0

3 考察

- ① 解答類型の4, 9, 0を見ると、条件1：比喩表現の使われている〈印象に残った一文〉を抜き出せない生徒が多数いることが分かります。既習事項を活用することに課題があります。
- ② また、【本の一部】には、複数の比喩表現が入っています。その中から自分の考えを述べるために必要な比喩表現を取捨選択しなければなりません。自分の考えを述べるための適切な情報を選択することに課題があります。

③ 解答類型の2, 3, 4, 9を見ると、何か一つ条件を欠いた解答をした生徒が50%弱いることが分かります。複数の条件を整理し、条件にそって文章を作ることに課題があります。提示された3つの条件は、文章の構成を考えるヒントであり、この欠落からは、構成を意識して文章を書くことに課題があることが示唆されます。

④ 解答類型0、無解答の生徒が14%いることが分かります。自分の考えを持ち、表現することを課題としている生徒もいます。

4 具体的な指導改善

○読書紹介、俳句や和歌の鑑賞文づくり、お気に入りの論語やおくのはそ道などの紹介、図書館やインターネットなどを使った調査活動、取材やインタビューなど、複数の情報から、必要な情報を取捨選択し、考えをまとめるための根拠を明確にし、文章の構成を意識して表現していく活動を位置づけましょう。

- ・自分の考えを支える根拠や理由を明確にしていく必要がありますので、他に根拠となるものはないかなど、複数の情報や叙述との関連を持てるようにしていくことが大切です。

(3-②)

- ・さまざまな文章に触れながら、段落の構成や場面の展開など、効果的な文章の構成などを考えることができるようにしていくことが大切です。また、筆者の主張や登場人物の思いや考えに対する自分の考えをもつ学習に取り組みましょう。(3-③,④)

○書くことなどの表現活動のあとに、生徒同士が主体的に交流できる場を位置づけましょう。

- ・鑑賞文などを読み合ったり、ポスターセッションやプレゼンテーションなどの発表の場を設けたりすることで、友の考えを知り、自分の考えを広げることができるようにしていくことが大切です。(3-③,④)

○考えを書くときに使えるような言語事項を提示し、活用する場面を設けることで、より一層の定着を図るようにしていきましょう。(3-①)

○単元の終末場面やまとめでは、授業を通して学んだことや考えたことを書く時間を位置づけるなど、継続的に表現活動に取り組めるようにしましょう。(3-④)

Ⅱ 全体を通して

- ・読むことにかかわって、文章の細部を読み取る力がありますが、文章全体の構成や展開、表現の特徴をとらえることに課題が見られます。

→複数の文章を読み比べて、表現や考え方の特徴及び違いなどをとらえるなど、多様な文章を読む活動を取り入れましょう。

- ・既習の言葉や表現を生活に生かすことに課題が見られます。

→語彙を増やすための意味調べを継続的に取り組むとともに、具体的な使用場面や用例なども一緒に考えたり、実際に言葉や表現を活用したりする場を位置づけましょう。

中学校数学

<A冊子>																				
問題番号	1				2				3				4			5				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	
評価領域等	数と式												図形							
技能	○		○		○	○	○	○		○		○		○	○			○	○	
知識理解		○		○							○			○			○	○		
全国正答率	87.1	69.3	75.6	89.4	56.3	75.4	78.5	56.1	82.7	52.8	59.6	62.2	67.4	90.6	30.7	67.0	90.1	80.2	51.8	
飯田市正答率	83.6	68.8	76.5	88.0	54.6	76.3	77.9	54.3	81.7	59.5	55.1	62.8	66.1	88.5	29.4	71.3	89.0	78.2	49.1	
全国正答率との比較																				
	-3.5	-0.5	0.9	-1.4	-1.7	0.9	-0.6	-1.8	-1.0	6.7	-4.5	0.6	-1.3	-2.1	-1.3	4.3	-1.1	-2.6	-2.7	

6		7		8	9	10			11		12	13	14		15	
(1)	(2)	(1)	(2)			(1)	(2)	(3)	(1)	(2)			(1)	(2)	(1)	(2)
					関数								資料の活用			
				○		○	○		○		○			○		○
○	○	○	○		○			○		○		○	○		○	
43.1	69.4	78.6	49.1	74.3	20.6	84.6	57.1	34.4	75.9	56.0	67.6	63.0	28.6	45.5	78.0	78.3
36.4	67.6	78.5	46.1	73.4	24.9	84.4	59.0	33.3	74.7	57.4	66.8	59.0	25.9	50.7	75.2	76.2

<B冊子>																
問題番号	1			2			3			4			5			
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	
評価領域等	図形			数と式			関数			図形			資料の活用			
考え方	○	○	○		○	○		○		○		○		○	○	
技能				○					○		○					
知識・理解							○						○			
全国正答率	67.5	14.0	52.8	80.4	44.1	14.5	90.8	18.4	43.2	44.1	60.0	44.5	79.3	50.3	17.6	
飯田市正答率	66.9	12.2	50.4	76.3	40.7	14.4	91.6	17.3	38.8	41.8	57.7	41.0	80.0	56.0	19.4	
全国正答率との比較																
	-0.6	-1.8	-2.4	-4.1	-3.4	-0.1	0.8	-1.1	-4.4	-2.3	-2.3	-3.5	0.7	5.7	1.8	

中学校数学

問題番号	全国正答率との比較	問題の概要
A 1 (1)	-3.5	$5/9 \times 2/3$ を計算する
A 1 (2)	-0.5	a と b が負の数 のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ
A 1 (3)	0.9	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する

A 1 (4)	-1.4		3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す
A 2 (1)	-1.7		5mの重さがa gの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す
A 2 (2)		0.9	$100-20a=b$ の式が表される場面を選ぶ
A 2 (3)	-0.6		$(2x+5y)-(6x-3y)$ を計算する
A 2 (4)	-1.8		等式 $x+4y=1$ を y について解く
A 3 (1)	-1.0		一元一次方程式 $4x=7x+15$ を解く
A 3 (2)		6.7	数量の関係を一元一次方程式で表す
A 3 (3)	-4.5		$x+y=2$ の解の意味について選ぶ
A 3 (4)		0.6	連立二元一次方程式を解く
A 4 (1)	-1.3		角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ
A 4 (2)	-2.1		$\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく
A 4 (3)	-1.3		半径が5 cm, 中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める
A 5 (1)		4.3	直方体において、与えられた辺に平行な面を書く
A 5 (2)	-1.1		1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ
A 5 (3)	-2.0		立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ
A 5 (4)	-2.7		円柱の体積を求める
A 6 (1)	-6.7		錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ
A 6 (2)	-1.8		n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ
A 7 (1)	-0.1		証明で用いられている三角形の合同条件を書く
A 7 (2)	-3.0		与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ
A 8	-0.9		事柄「 $\angle ABD=\angle CBD$, $\angle ADB=\angle CDB$ ならば、 $AB=CB$ である。」の仮定をすべて書く
A 9		4.3	長方形の縦の長さや面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する
A10 (1)	-0.2		比例 $y=4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める
A10 (2)		1.9	比例のグラフから式を求める
A10 (3)	-1.1		反比例の表から比例定数を求める
A11 (1)	-1.2		一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる
A11 (2)		1.4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ
A12	-0.8		線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2 cm 燃えるときの時間を選ぶ
A13	-4.0		二元一次方程式が表すグラフを選ぶ
A14 (1)	-2.7		反復横とびの記録の範囲を求める
A14 (2)		5.2	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める
A15 (1)	-2.8		さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ
A15 (2)	-2.1		赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める
B 1 (1)	-0.6		隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ
B 1 (2)	-1.8		四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様になるとき、どのような回転移動になるかを説明する
B 1 (3)	-2.4		与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ
B 2 (1)	-4.1		六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める
B 2 (2)	-3.4		六角形をn個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す
B 2 (3)	-0.1		六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する
B 3 (1)		0.8	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万 m^3 であったことを表す点を求める
B 3 (2)	-1.1		与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する
B 3 (3)	-4.4		与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める
B 4 (1)	-2.3		2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する
B 4 (2)	-2.3		$\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める
B 4 (3)	-3.5		点Dと点Eを $BD=CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ
B 5 (1)		0.7	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める
B 5 (2)		5.7	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ
B 5 (3)		1.8	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する

- 1 基礎的・基本的な知識・技能に関する問題を解決するにあたっては、解決の手順や方法を考え、適切な用語を用いて書いたり、説明し合ったりするなどの活動を取り入れましょう。
- 2 日常的な事象等を数学化したり、数学的に解釈、表現、考察をしたりすることで、活用する力を伸ばせるような授業実践をしていきましょう。また、問題解決のための構想を立て実践したり、結果を評価し改善したりすることも取り入れていきましょう。さらに、他の事象との関係も捉え、複数の事象を統合し、事象を多面的に見られるようにもしていきましょう。
- 3 適切な問題把握ができるように、課題把握の場面を工夫しましょう。また、話し合い等、学びを深め合えるような学習活動を取り入れ、めりはりのある授業をしましょう。さらに、次の授業に生かせるように、ねらいの達成（評価）を見とどけましょう。

指導改善のポイント

【数と式】方程式の解の意味等、導入部分における理解が不十分という傾向はありませんか。

○二元一次方程式の解の意味の理解に課題がみられます。A[3]

→様々な数を文字に代入し、二元一次方程式を成り立たせる文字の値の組を探す活動を取り入れましょう。

二元一次方程式の解となる x, y の値の組は無数にあることを理解できるようにしましょう。

(3) 二元一次方程式 $x + y = 2$ の解について、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ウ $x + y = 2$ を成り立たせる x, y の値の組のすべてが、 $x + y = 2$ の解である。

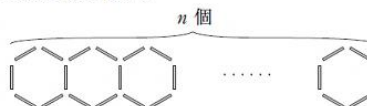
○問題場面における考察の対象を明確に捉えることに課題がみられます。B[2]

→少ない数から、具体数を用いて学習していく活動を取り入れましょう。

状況に合わせ、増える数に目をつけて計算で求めたり、表をつくったりして考える活動を取り入れましょう。

また、図を用いて、まとまりでくくり、視覚的にも分かるような活動を取り入れましょう。さらに、それを説明するような活動を取り入れましょう。

[2] 次の図のようにストローを並べて、六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を考えます。



(1) 六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求めなさい。

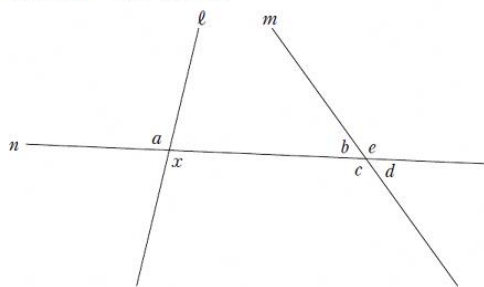
【図形】錯角等の用語のような、基礎的・基本的な知識（用語含）・技能に関する意味の理解が不十分という傾向はありませんか。A[6]

○錯角の意味の理解に課題がみられます。

→2直線に1直線が交わってできる角の位置関係について理解できるようにするために、2直線に1直線が交わってできる8つの角で、互いに同位角や錯角の関係になっている角を見いだす活動を取り入れましょう。例えば、平行でない2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角と、

平行な2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角について、それぞれ位置関係を捉える活動を取り入れましょう。また、それぞれの角の大きさを測定し、同位角や錯角が等しくなるのは2直線が平行な場合だけであることを、実感を伴って理解できるようにしましょう。

(1) 次の図で、2つの直線 ℓ, m に1つの直線 n が交わっています。このとき、 $\angle x$ の錯角について、下のアからカまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



イ $\angle x$ の錯角は、 $\angle b$ である。

【関数】二元一次方程式のグラフの傾きと切片の意味等、基礎的・基本的な知識（用語含）・技能に関する意味の理解が不十分という傾向はありませんか。また、日常的な事象等を数学化したり、数学的に解釈、表現、考察をしたりすることで、活用する力を伸ばせるような授業実践が不十分という傾向はありませんか。

○数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することに課題がみられます。 B³

→問題解決において用いた式を事象に即して捉え直す活動を取り入れましょう。

本問題を使って授業を行う際には、与えられた情報を基に1日あたりの節水量の関係を式に表し、式の12aの値が「シャワーを流しっぱなしにしている時間をa分間短くしたときの節水量」、5×2の値が「1日2回の歯磨きでコップに水を貯めて歯磨きしたときの節水量」を表すことを確認する場面を設定しましょう。

○二元一次方程式を、関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味の理解に課題がみられます。 A¹³

→二元一次方程式 $ax+by+c=0$ を y について解き、一次関数とみた上で、二元一次方程式とグラフの特徴について考察する場面を設定しましょう。

本問題を使って授業を行う際には、二元一次方程式 $2x+y=6$ において、 x のとる値を1つ決め

れば、それに対応して y の値が1つ決まることから、この式は x と y の間の関数関係を表しているともみることができると確認する場面を設定しましょう。具体的には、 $x=0$ のときの y の値を求めることで、 y 軸上の x 座標が求められること、 $y=0$ のときの x の値を求めることで、 x 軸上の y 座標が求められることを確認する場面を設定しましょう。さらに、この式を $y=-2x+6$ と変形することによって、 y は x の一次関数であり、傾きが-2、切片が6であることを確認した上で、グラフをかく活動を取り入れましょう。

【資料の活用】 特記する課題なし。

【全体を通して】

- ①二元一次方程式の意味、規則性から具体的な個数等を求めること、錯角の理解、二元一次方程式とグラフの関係等、基礎的・基本的な知識（用語含）・技能に関する意味の理解に力を入れましょう。
- ②節水問題のような、日常的な事象等を数学化したり、数学的に解釈、表現、考察をしたりすることで、活用する力を伸ばせるような授業実践をしていきましょう。
- ③飯田市学力向上「結い」プランを意識した授業を行っていきましょう。

適切な問題把握ができるよう、課題把握の場면을工夫しましょう。また、話し合い等、学びを深め合えるような学習活動を取り入れ、めりはりのある授業をしましょう。さらに、次の授業に生かせるよう、ねらいの達成（評価）を見とどけましょう。

(3) 康平さんは調べたことをきっかけに、水を大切にしようと思いました。そこで、家でできる節水の方法を調べて表にまとめ、それをもとに毎日の取り組みを決めました。



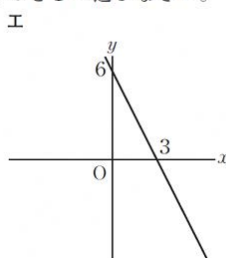
途中略

シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの、1日あたりの節水量を b L とするとき、康平さんの取り組みによる1日あたりの節水量は、次の式で表すことができます。

$$b = 12a + 5 \times 2$$

康平さんの取り組みを行うとしたら、1日あたりの節水量がどのくらいになるかを、上の式をもとに考えます。
 a の変域を $3 \leq a \leq 5$ とするとき、 b の変域を求めなさい。

13 下のアからエまでの中に、二元一次方程式 $2x+y=6$ の解を座標とする点の全体を表すグラフがあります。そのグラフとして正しいものを1つ選びなさい。

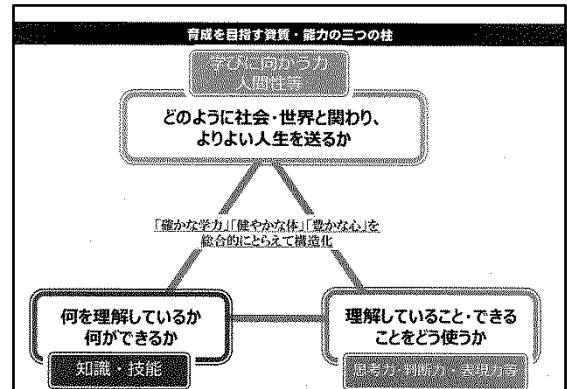


Ⅲ 質問紙調査の回答からみえる飯田市の分析結果について

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関して

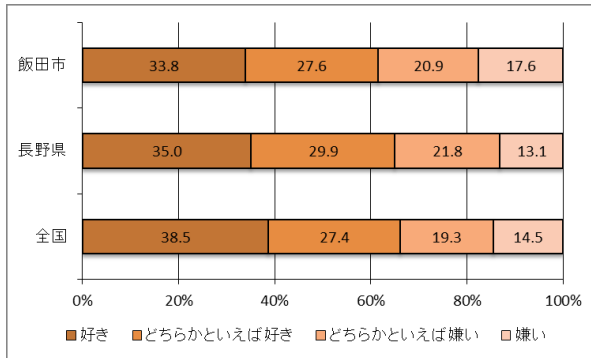
3月に告示された新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理している。

ここではまず「学びに向かう力、人間性等」の柱をもとに質問紙調査を分析する。そして、新学習指導要領の理念の1つ「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善の方向を探っていく。

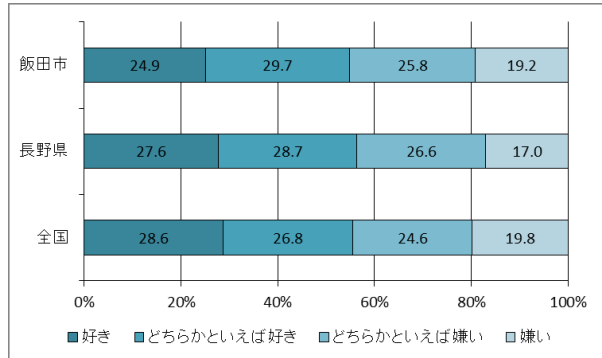


(1) 学びに向かう力について

[グラフ-1:小 算数の勉強は好きですか]

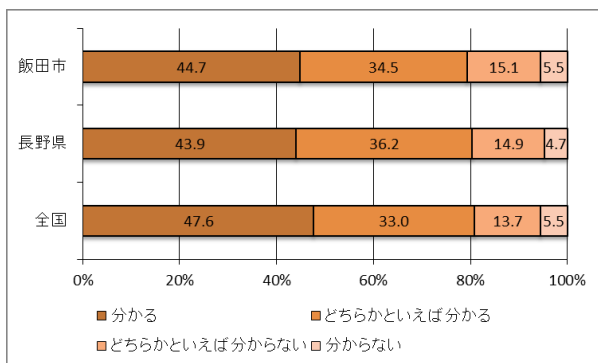


[グラフ-2:中 数学の勉強は好きですか]

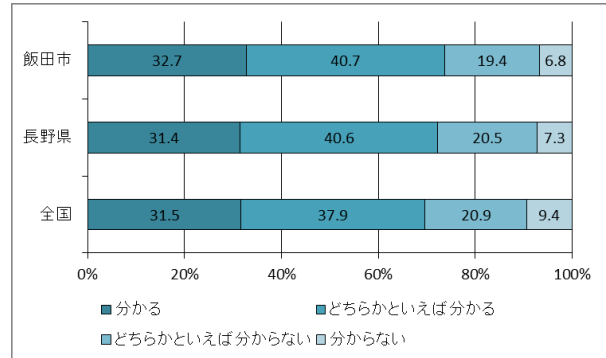


グラフ 1, 2 から、小学生は肯定的な回答（好き・どちらかといえば好きの合算）が 61.4%で全国よりも 4.5 ポイント低い。中学生は肯定的な回答（小学校と同じ）が 54.6%で全国よりも 0.8 ポイント低い。中学生は否定的な回答（どちらかといえば嫌い・嫌い）が 45.0%と約半数であるという傾向は昨年とほぼ同じである。

[グラフ-3:小 算数の授業内容はよく分かるか]



[グラフ-4:中 数学の授業内容はよく分かるか]



グラフ 3, 4 から、小学生は肯定的な回答（授業の内容がよく分かる、どちらかといえば分かるの合算）が 79.2%で、全国の 80.6%を 1.4 ポイント下回っている。中学生は肯定的な回答（小学校と同じ）が 73.4%で、全国の 69.4%を 4.0 ポイント上回っている。

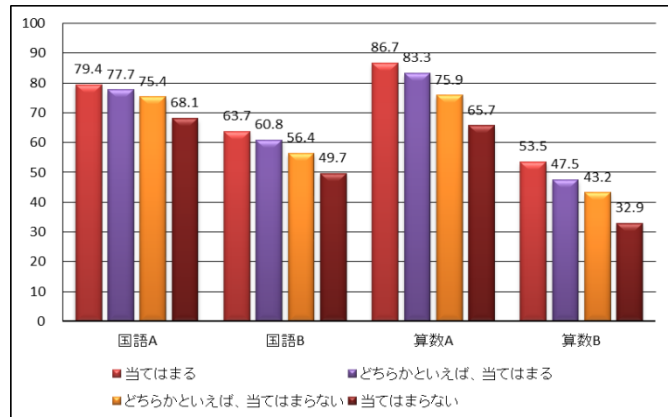
クロス集計（児童生徒質問紙⇔教科）からの検証（No 1）

※児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率（飯田市）

【質問】算数・数学の勉強は好きですか（前出、小中グラフ1,2）

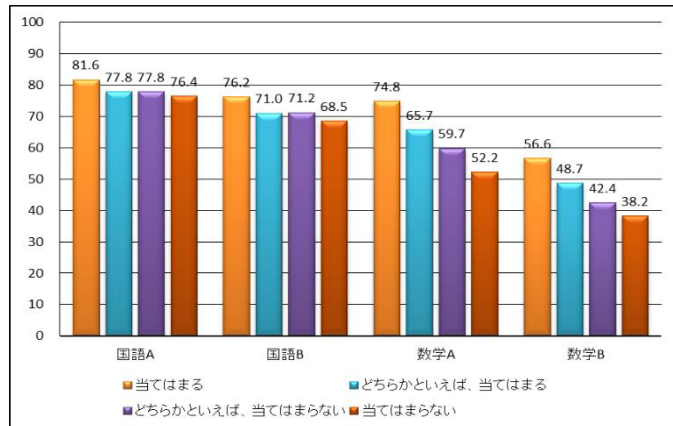
小学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	33.8
どちらかといえば、当てはまる	27.6
どちらかといえば、当てはまらない	20.9
当てはまらない	17.6



中学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	24.9
どちらかといえば、当てはまる	29.7
どちらかといえば、当てはまらない	25.8
当てはまらない	19.2

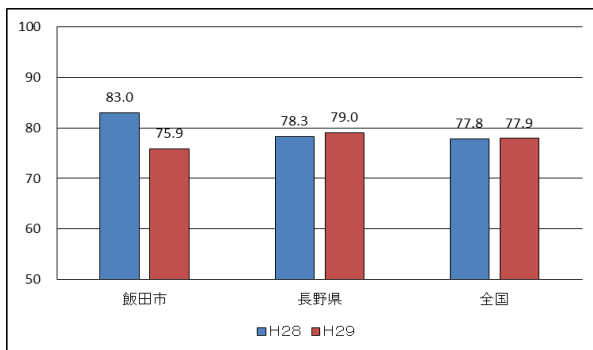


「算数・数学の勉強は好きですか」の質問に、小中学校共に、「そう思う」と回答した児童生徒の方が、算数・数学並びに国語の平均正答率が高いことが分かる。特に小学校の算数においてその特徴が顕著に表れている。

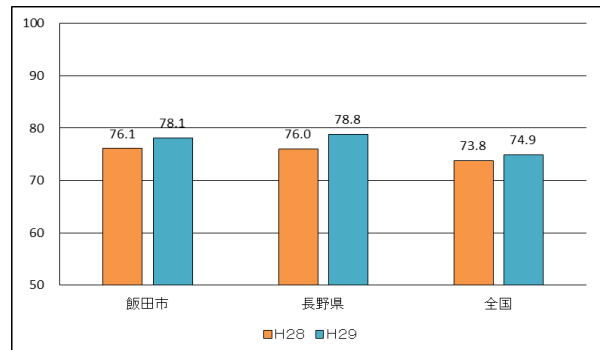
（2）「主体的・対話的で深い学び」について

【質問】先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか

[グラフ-5: 小 H28～H29]



[グラフ-6: 中 H28～H29]



グラフ 5, 6 から平成 29 年度をみると、小学生は肯定的な回答（取り組んでいた、どちらかといえば取り組んでいたの合算）が 75.9%で、全国の 77.9%を 2.0 ポイント下回っている。また、前年度より 7.1 ポイント低い。

中学生は肯定的な回答（小学校と同じ）が 78.1%で、全国の 74.9%を 3.2 ポイント上回っている。

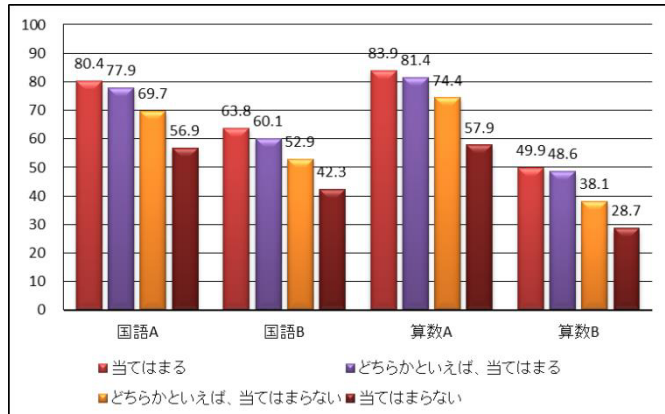
クロス集計（児童生徒質問紙⇔教科）からの検証（No 2）

※児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率（飯田市）

【質問】課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた（前出、小中グラフ 5, 6 の H 2 9）

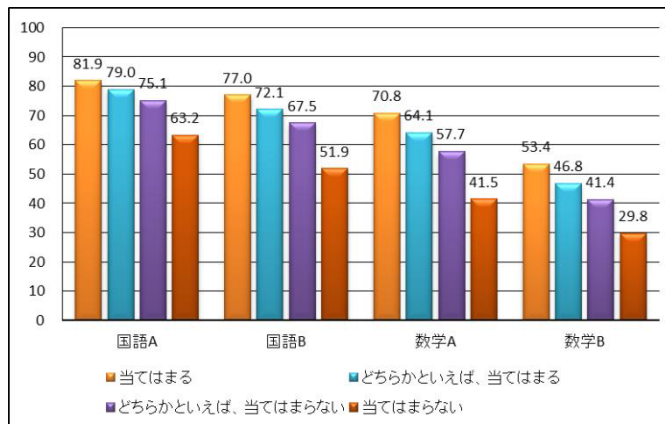
小学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	23.0
どちらかといえば、当てはまる	52.9
どちらかといえば、当てはまらない	20.9
当てはまらない	3.1



中学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	27.9
どちらかといえば、当てはまる	50.2
どちらかといえば、当てはまらない	17.5
当てはまらない	4.4



「課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか」の質問に、小中学校共に、「当てはまる」と回答した児童生徒の方が、平均正答率が高いことが分かる。また「当てはまらない」と回答した児童生徒の国語、算数・数学での平均正答率の低下が顕著である。

【1】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関して

算数・数学が好きかを問う質問結果は、小中ともに全国を下回る状況であった。当然予想されることであるが、飯田市の児童生徒においても、算数・数学の好き嫌いとは平均正答率の間に相関関係を見ることが出来る。また一方、数学の授業内容がよく分からないという生徒が、(H26) 37.1%⇒(H27) 32.9%⇒(H28) 27.0%⇒(H29) 26.2%と、改善の傾向はみられるものの、教室の4の1程度の生徒が、授業内容がよく分からない状態であると言える。まず授業内容が理解でき、算数・数学の本質に迫るおもしろさを感じ取る「深い学び」ができるように、小中共に日頃から教材研究や授業研究を深めたい。

さらに、授業の理解度の差異や算数・数学の好き嫌いは、平均正答率との相関から考えれば、課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいるかの違いに大いに関係していることが分かる。「主体的・対話的な学び」を実現する授業改善の視点をもって、日々の授業づくりを進めたい。

2 小中連携・一貫教育の効果に関して

（1）「飯田市学力向上『結い』プラン」の検証

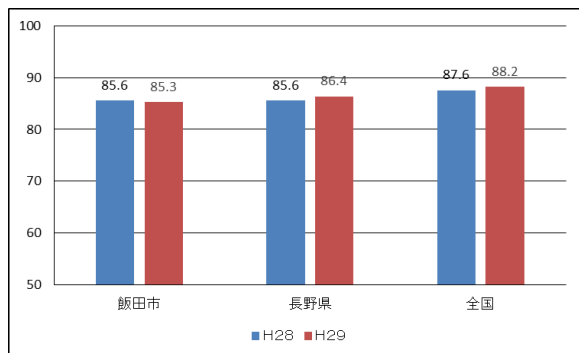
平成 26 年 4 月から、「学力向上『結い』プラン」として、授業の 3 観点を明確にしてすべての教室で 9 年間を通した一貫性のある授業づくりを進めている。以下のグラフは、小学校と中学校の授業（導入・展開・終末）における児童生徒と教師の意識の違いを示したものである。

小学校

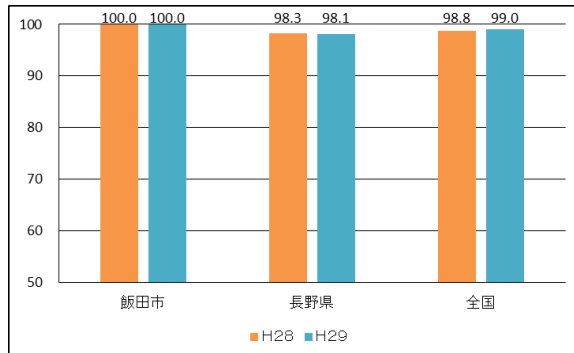
1 明確なねらいをもって進める授業

【質問】授業の中で「めあて・ねらい」が示されていた

〔グラフ-1:児童〕



〔グラフ-2:教師〕

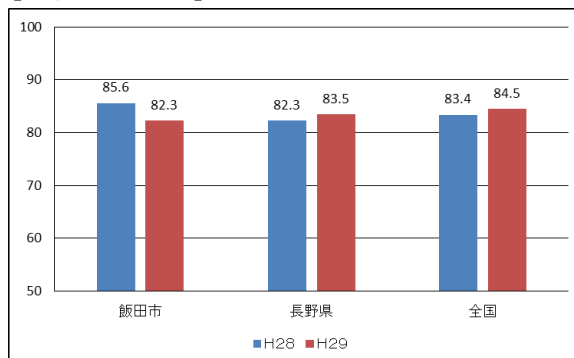


飯田市の児童の意識は、平成 27 年度から 81.8%⇒85.6%⇒85.3%と推移し、児童と教師の意識のズレは減少傾向にある。しかし、授業の「めあて」に対する意識の差は 14.7 ポイントある。

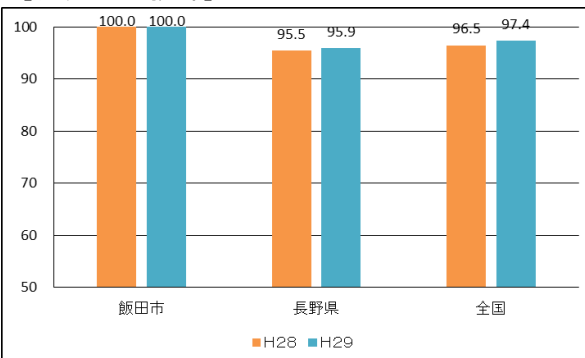
2 学びを深め合う、めりはりのある学習活動

【質問】授業では、話し合い活動をよく行っていた

〔グラフ-3:児童〕



〔グラフ-4:教師〕

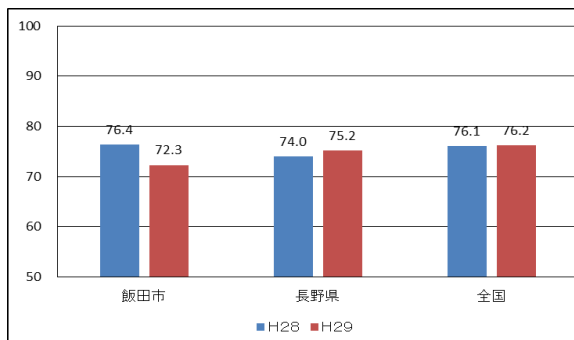


めりはりのある学習活動に対する児童の意識は、全国や長野県と比べ飯田市は 3.3 ポイント減少している。話し合う活動の充実について、児童と教師の意識のズレは 17.7 ポイントに広がった。

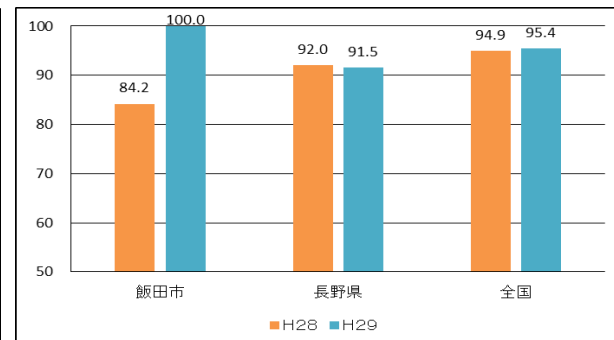
3 ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価（終末の振り返り）

【質問】授業の最後に振り返る活動をよく行っていた

〔グラフ-5:児童〕



〔グラフ-6:教師〕



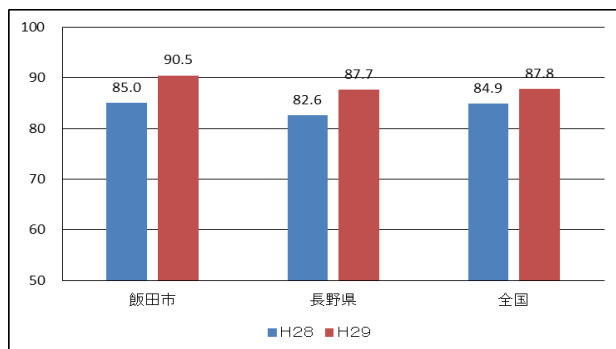
飯田市の児童の意識は昨年より 4.1 ポイント減少し、教師の意識は、昨年より 15.8 ポイント改善した。このため、児童と教師の意識のズレは 27.7 ポイント拡大している。

中学校

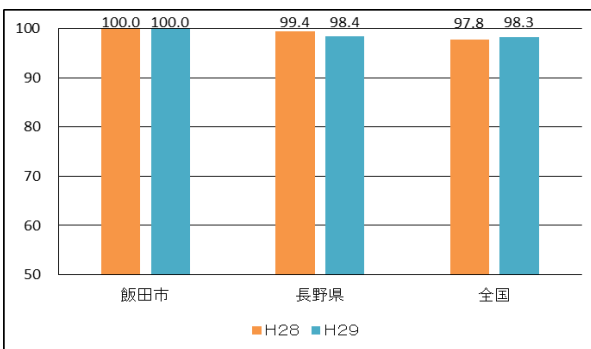
1 明確なねらいをもって進める授業

【質問】授業の中で「めあて・ねらい」が示されていた

〔グラフ-1:生徒〕



〔グラフ-2:教師〕

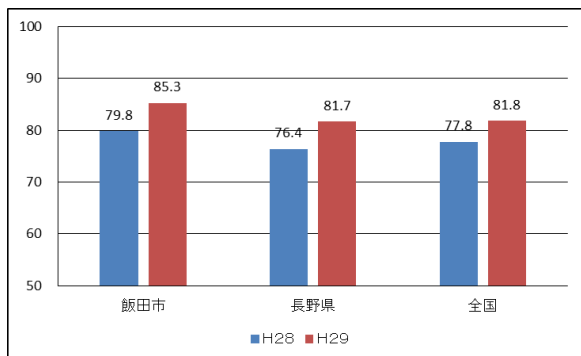


飯田市の生徒の意識は、80.7% (H27) → 85.0% (H28) → 90.5% (H29) と上昇し、生徒と教師の意識のズレも改善がみられる。多くの教室で学習課題が設定された授業が展開されていることが伺われる。

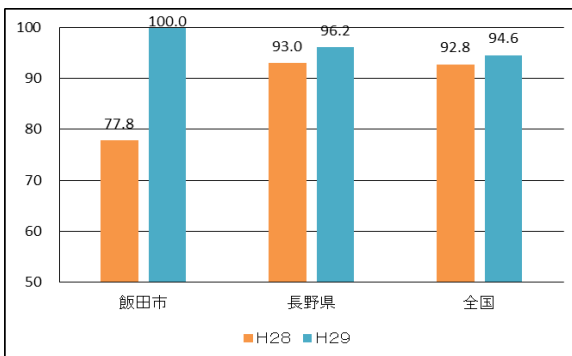
2 学びを深め合う、めりはりのある学習活動

【質問】授業では、話し合い活動をよく行っていた

〔グラフ-3:生徒〕



〔グラフ-4:教師〕

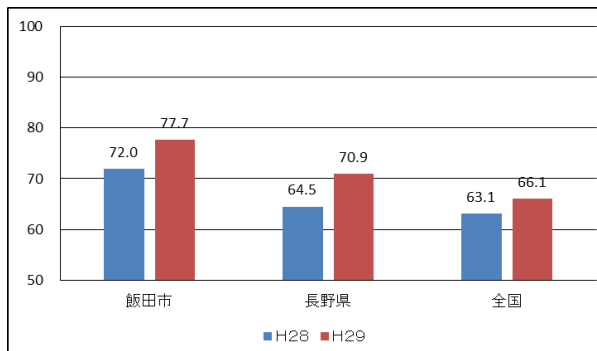


本年度の生徒の意識は昨年より 5.5 ポイント改善した。また、「学級やグループで話し合う活動を授業で行いましたか」という質問に対する教師の意識が昨年より 22.2 ポイント大幅に増加している。多くの教室でメリハリのある授業が展開されていると思われる。

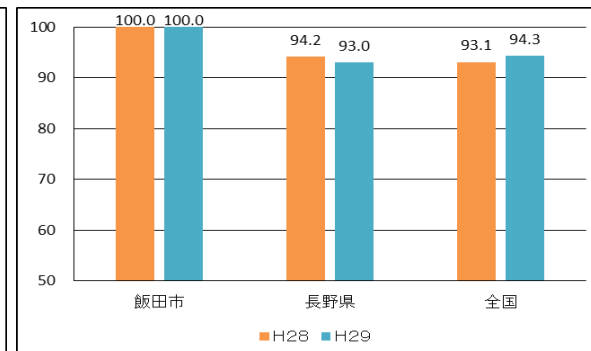
3 ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価（終末の振り返り）

【質問】授業の最後に振り返る活動をよく行っていた

〔グラフ-5:生徒〕



〔グラフ-6:教師〕



授業を振り返る活動については、生徒の意識は 77.7% で昨年より 5.7 ポイント高くなった。生徒

と教師の意識のズレはまだみられるが、徐々に改善され、振り返る活動の定着が図られている。

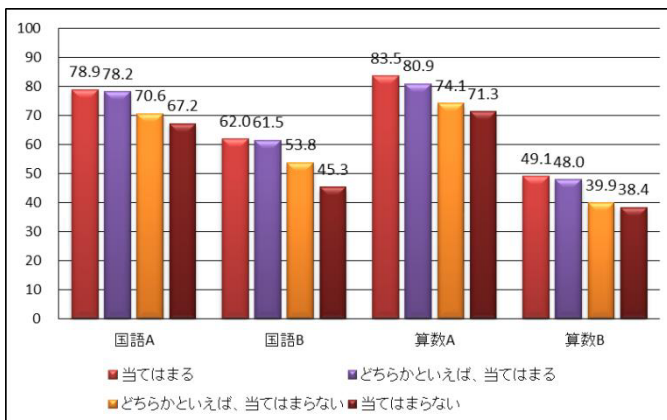
クロス集計（児童生徒質問紙⇔教科）からの検証（No 3）

※児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率（飯田市）

【質問】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた（前出、小中グラフ 5）

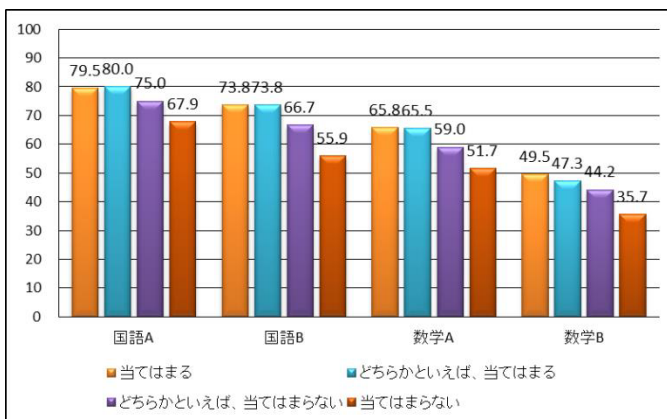
小学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	37.2
どちらかといえば 当てはまる	35.1
どちらかといえば 当てはまらない	19.7
当てはまらない	7.9



中学校

回答選択肢	割合%
当てはまる	31.4
どちらかといえば 当てはまる	46.3
どちらかといえば 当てはまらない	18.7
当てはまらない	3.6



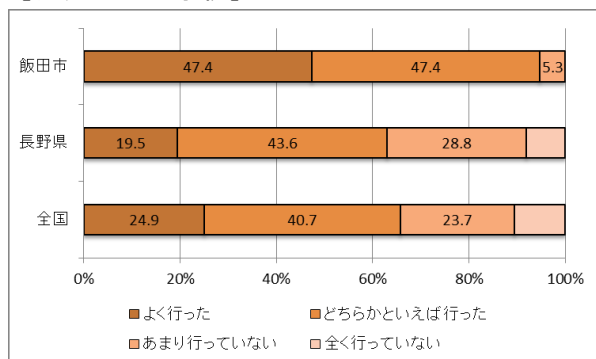
「(今まで受けた) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の質問に、小中学校共に、「そう思う」と回答した児童生徒の方が、平均正答率が高いことが分かる。これは、「めあて・ねらい」「話し合い活動」の質問項目においても同様な傾向がみられる。

（２）小中学校の連携について

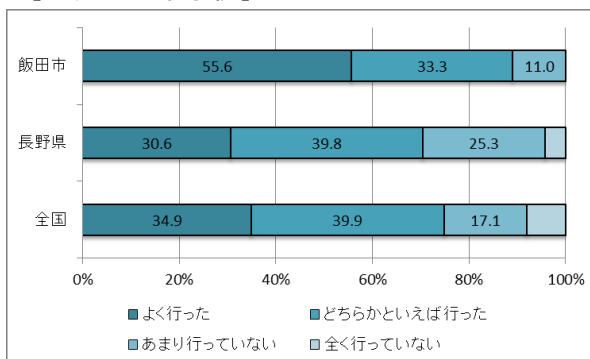
平成 25 年度から全中学校区で進む「小中連携・一貫教育」は、それぞれ深耕期 3 年目の取組が展開されている。小中合同の研修会は、ごく自然な形で開催され、「授業改善」を研修会の中心として、学力向上に向けた一貫性のある指導について各中学校区で協議が深まりつつある。

【質問】近隣の小学校（中学校）と合同して研修を行いましたか

[グラフ-1: 小学校]

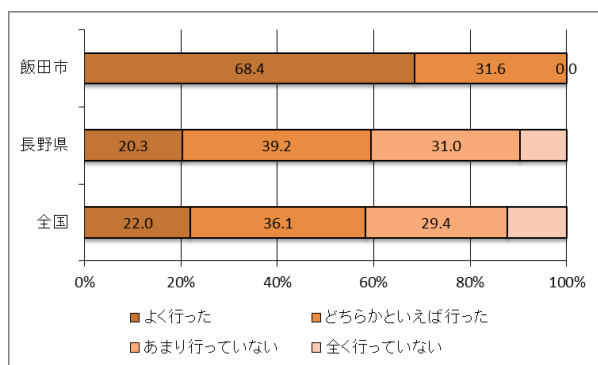


[グラフ-2: 中学校]

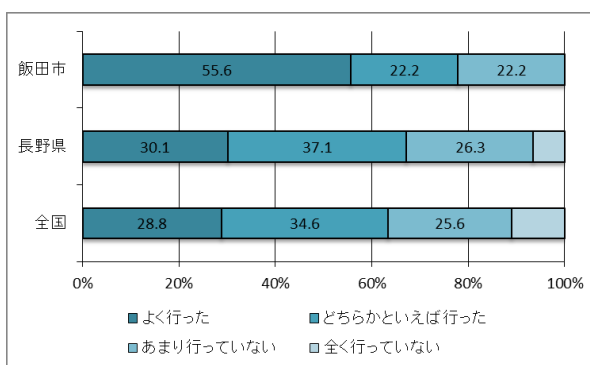


【質問】近隣の小学校（中学校）と教育目標を共有する取組をしていましたか

【グラフ-3: 小学校】



【グラフ-4: 中学校】



グラフ 1, 2 は「前年度までに、近隣等の小・中学校と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか」の状況である。グラフから、肯定的な回答（よく行っている、どちらかといえば行っているの合算）の割合は、小学校は 94.8%、中学校は 88.9%で、全国や長野県の肯定的な回答を大きく上回っている。各中学校区の小中学校間で、教師による研修や交流が進んでいる状況が伺われる。

同じくグラフ 3, 4 は「前年度までに、近隣等の小・中学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか」の状況である。グラフから、肯定的な回答（よく行った、どちらかといえば行ったの合算）の割合は、小学校は 100.0%で全国と比べ 41.9 ポイント、中学校は 77.8%で全国と比べ 14.4 ポイント、肯定的な回答が大きく上回っている。

【2】小中連携・一貫教育の効果に関して

飯田市では平成 26 年 4 月に「学力向上『結い』プラン」を作成し、すべての教室で個々の児童生徒の学力向上に向けた 9 年間を通した一貫性のある授業づくりを進めている。

具体的には、**①**明確なねらいを持って進める授業 **②**学びを深め合う、めりはりのある学習活動 **③**ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価の 3 点から、日々授業改善を行っている。

①について、「授業の中で『めあて・ねらい』が示されていたか」の質問に、中学生は本年度、9 割余が課題を意識して学習に取り組んでいて、(H27) 80.7% ➡ (H28) 85.0% ➡ (H29) 90.5%、と意識の改善がみられる。一方、小学校では、昨年同様、15%近くの児童が、課題をあまり意識することなく学習している実態が伺われる。教師は『めあて・ねらい』を示していると思っても、児童生徒はそう意識していないことが考えられる。子どもの意識にそって課題を設定したり、子どもの言葉で学習問題を書き表したり、児童生徒と教師の意識のズレを埋めていく取組が必要である。

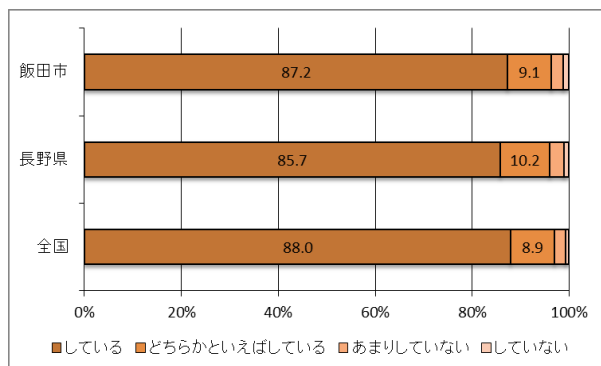
②について、「話し合い活動をよく行っていた」という質問で、小学校では肯定的な回答が減少している。また、前項で分析した「課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」という質問結果でも同様な傾向がみられた。小学校では、「学びを深め合う、めりはりのある学習活動」よりも学習内容をこなすことに力点が置かれていないか懸念されるところである。中学校では、話し合い活動を重視する教師の意識が現れてきているので、さらに発展させていきたい。

③ 授業を振り返る活動について、児童生徒と教師の意識のズレはまだみられるが、徐々に改善され、振り返る活動の定着が図られている。終末段階の知識・技能の確実な定着と、伸びる力を一層伸ばすことを意識した終末のあり方を教科会や学年会でも確認し合い、より一層授業改善を進めていきたい。

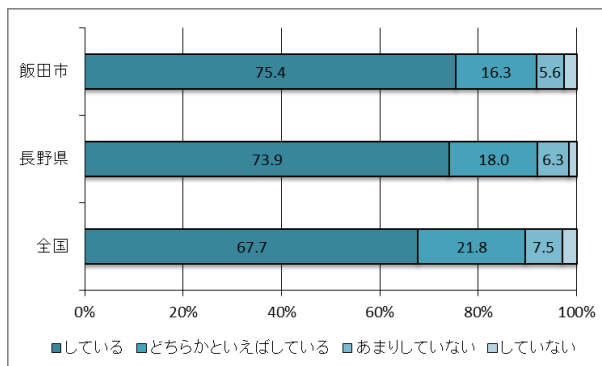
3 家庭学習の内容や方法に関して

(1) 児童生徒の実態

[グラフ-1: 小 家で、学校の宿題をしているか]

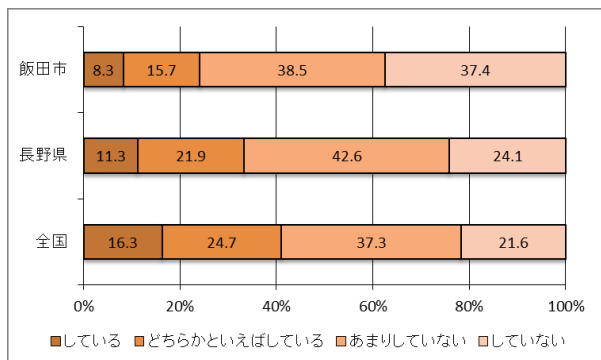


[グラフ-2: 中 家で、学校の宿題をしているか]

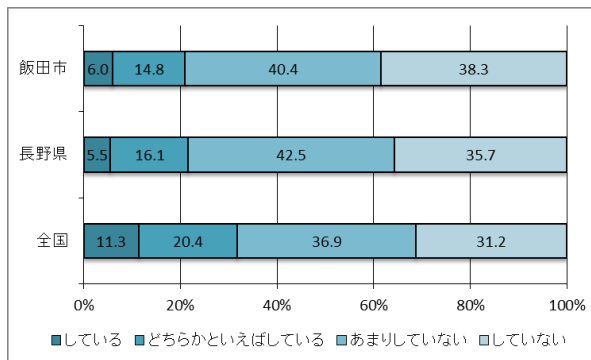


小学校では、宿題をしている（している・どちらかといえばしているの合算）は 96.3%と、昨年より 1.3 ポイント下回っているものの、全国とほぼ同じ傾向である。中学校では、宿題をしている（小学校と同じ）が 91.7%で、全国よりも 2.2 ポイント高く、昨年とほぼ同じ傾向である。

[グラフ-3: 小 家で、授業の予習をする]

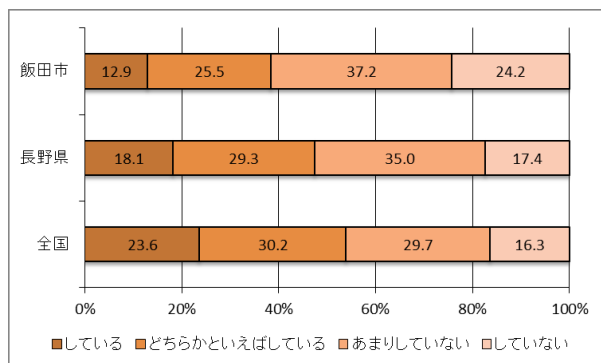


[グラフ-4: 中 家で、授業の予習をする]

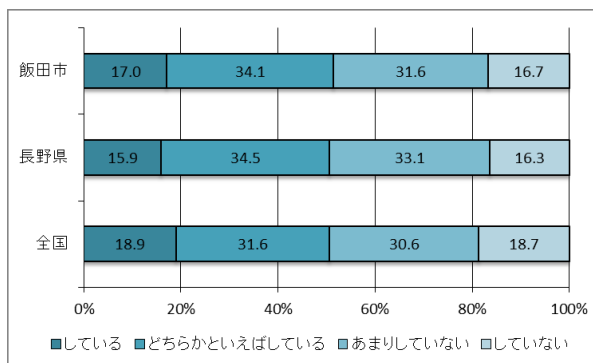


グラフ 3,4 から、「家で予習する」（している・どちらかといえばしているの合算）割合は、小学生が 24.0%で全国に比べて 17.0 ポイント低い。その差は 9.5P(H27) ➡13.4P(H28) ➡17.0P(H29) と、年々拡大している。中学生が予習している割合（小学校と同じ）は、20.8%で全国に比べて 10.9 ポイント低い、予習している割合は昨年よりも増加し、全国との差が 6.7 ポイント縮まった。しかし、予習をしていないが約 8 割と依然として高い状況が続いている。

[グラフ-5: 小 家で、授業の復習をする]

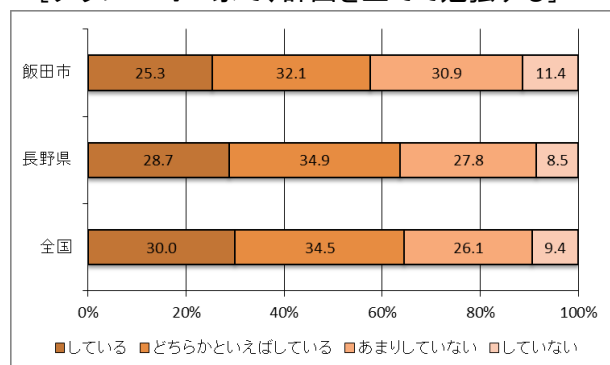


[グラフ-6: 中 家で、授業の復習をする]

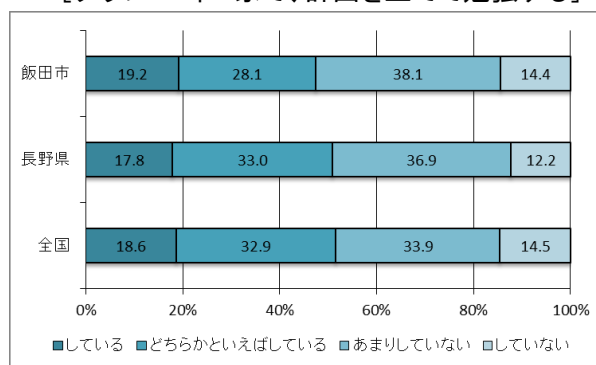


グラフ 5, 6 から「家で復習する」（している・どちらかといえばしているの合算）割合は、小学生が 38.4%で全国に比べて 15.4 ポイント低い。これは、昨年の全国比 6.2 ポイント低いよりも 9.2 ポイント差が広がっている。中学生は復習している割合（小学校と同じ）が 51.1%で、全国に比べて 0.6 ポイント高い。2 年連続マイナスに差が拡大したが、今年度は全国と同程度となった。

〔グラフ-7:小 家で、計画を立てて勉強する〕



〔グラフ-8:中 家で、計画を立てて勉強する〕

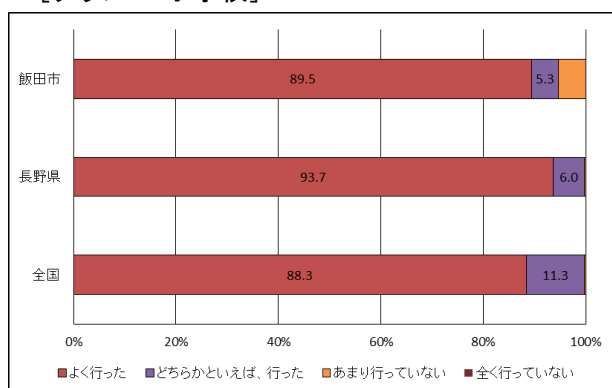


グラフ 7, 8 から、小学校は「自分で計画を立てて勉強している（している・どちらかといえばしているの合算）」の割合が 57.4%であり、全国の 64.5%よりも 7.1 ポイント低い。中学校は、「している」（小学校と同じ）割合が 47.3%であり、全国の 51.5%よりも 4.2 ポイント低い。しかし、昨年と比べ、「している」割合は 8.4 ポイント増加した。

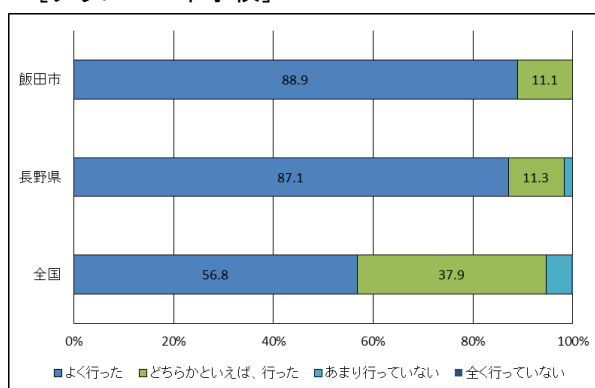
（２）学校質問紙の回答にみる家庭学習に関する学校の指導

【質問】算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

〔グラフ-9:小学校〕



〔グラフ-10:中学校〕

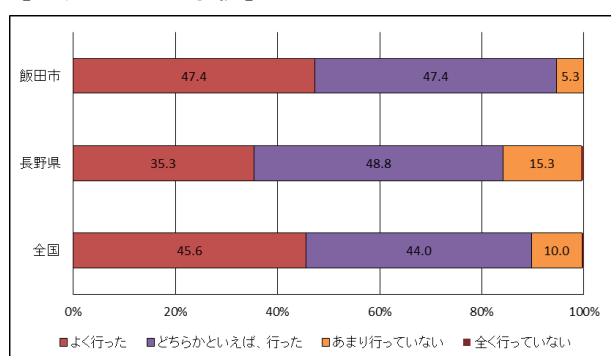


小学校では算数の指導として宿題をよく与えているが 89.5%で、全国とほぼ同じ傾向である。

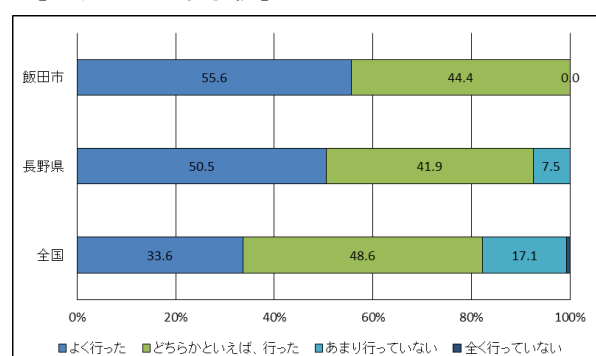
中学校では数学の指導として宿題をよく与えているが 88.9%で、全国よりも 32.1 ポイント高い。

【質問】家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか

〔グラフ-11:小学校〕



〔グラフ-12:中学校〕

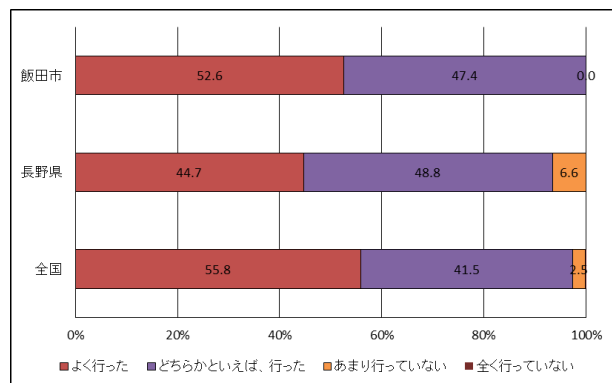


小学校は校内の教職員で共通理解を図っている（よく行ったとどちらかといえば行っとの合算）が 94.8%で、全国の 89.6%を 5.2 ポイント上回る。

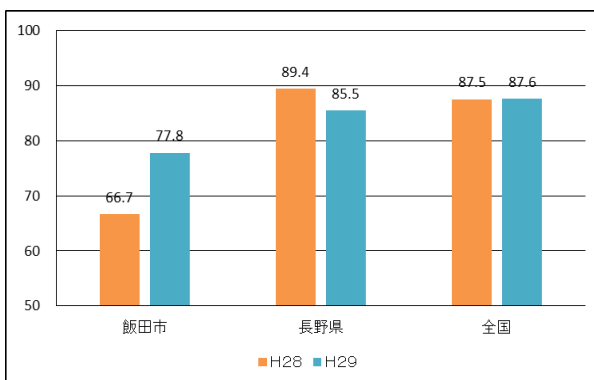
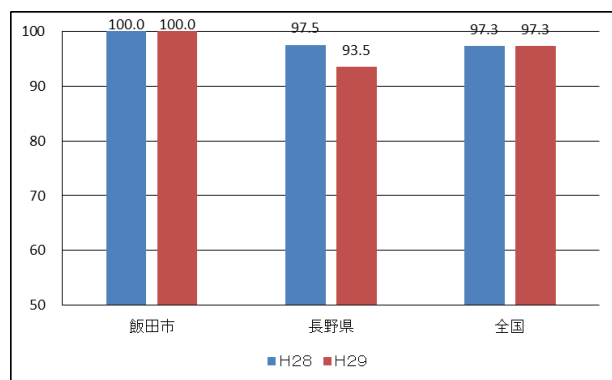
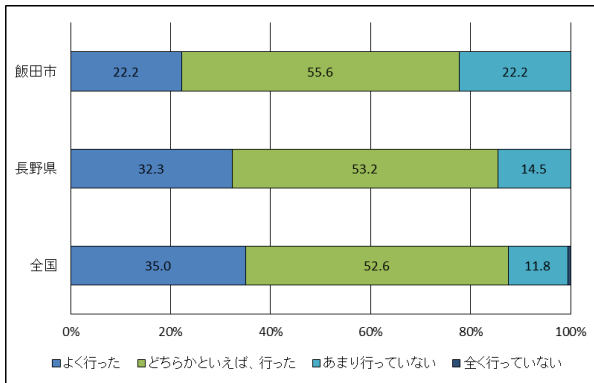
中学校は校内の教職員で共通理解を図っている（小学校と同じ）が 100.0%で、昨年より 11.1 ポイントの伸びがみられ、また全国の 82.2%を 17.8 ポイント上回る。

【質問】保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか

〔グラフ-13: 小学校〕



〔グラフ-14: 中学校〕



小学校は、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行っている（よく行ったとどちらかといえば行っとの合算）が 100.0%で全国の 97.3%を 2.7 ポイント上回る。

中学校は、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけをよく行っている（小学校と同じ）が、77.8%で、全国の 87.6%より 9.8 ポイント低い。しかし、昨年と比べ 11.1 ポイント働きかけを行うことが伸びてきている。

【3】家庭学習の内容や方法に関して

小学生の 96.3%、中学生では 91.7%が机に向かい宿題をしている。しかし、自分で自主的・計画的に勉強したり、学校の授業に関連した内容の予習や復習をしたりしている割合は全国に比べると低く、予習や復習の状況に課題が見られた。これは、小中学生ともに昨年とほぼ同様な傾向であるが、特に小学生の予習・復習では全国との差が昨年より拡大する傾向もみられ、授業に関連した予習や復習の状況に課題がみられた。

国語と算数・数学に関し、飯田市の小中学校では、宿題をよく与えている。そして前述のとおり、それに応えるように児童生徒もよく宿題を行っている姿が伺える。こうした宿題をはじめとする家庭学習について、教職員の間で共通理解が図られるようになってきている。特に、中学校において、学年会や教科会において協議が進んでいると思われる。

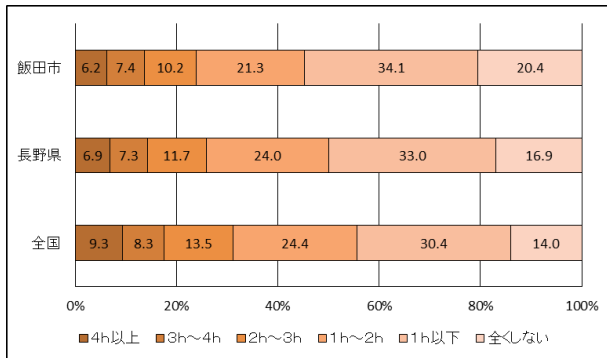
家庭学習に関する保護者への働きかけは、意識はされてきているものの、年度当初における「家庭学習の手引き」の家庭への配付などに終わらせない、継続的な働きかけが求められる。

4 基本的な生活習慣と日常生活に関して

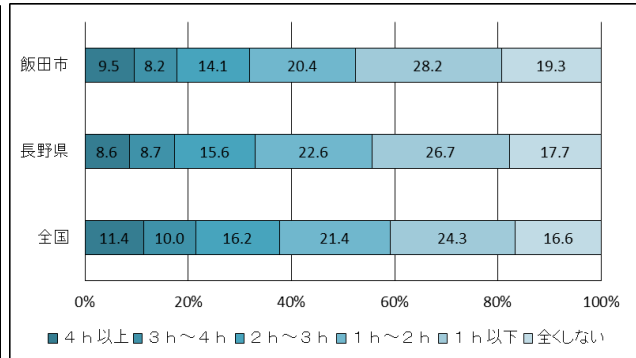
社会環境が大きく変化する今日、子どもたちが、家族とのふれあいの中で、基本的な生活習慣を身に付け、様々な経験を通して、コミュニケーション能力や社会性を培って欲しいと願っている。

そこで飯田市教育委員会では、家族と一緒に過ごす時間を「わが家の結いタイム」と名付け、家族の「対話」や「ふれあい」の推進を図っている。このような「わが家の結いタイム」の視点から、飯田市の子どもたちの基本的な生活習慣や日常生活を分析した。

〔グラフ-1:小 1日当たりテレビゲームをする時間〕



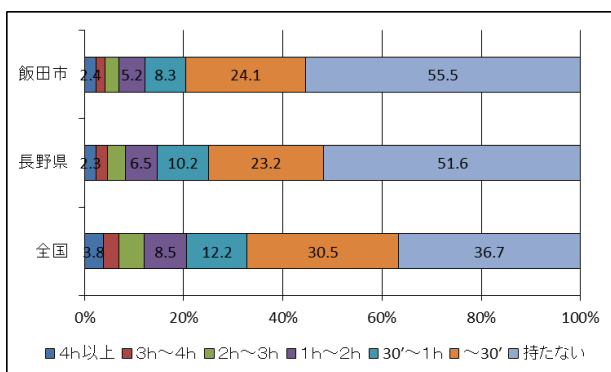
〔グラフ-2:中 1日当たりテレビゲームをする時間〕



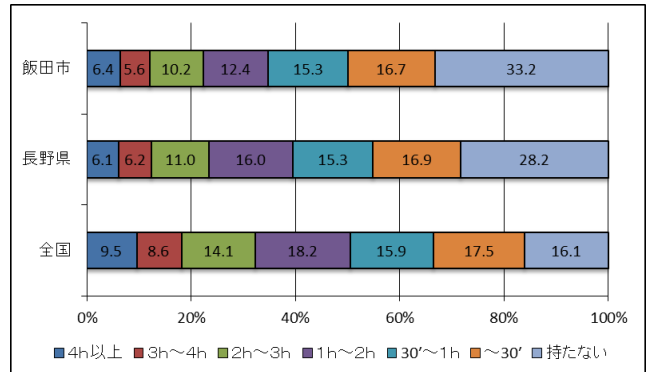
グラフ1,2は、普段、1日当たりどのくらいテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯電話やスマホのゲームを含む）をしているか尋ねたものである。小学校では、2時間以上しているが23.8%で、全国の31.1%よりも7.3ポイント低い。また、全くしないのは20.4%で、全国の14.0%よりも6.4ポイント高い。

中学校では、2時間以上しているが31.8%で、全国の37.6%よりも5.8ポイント低い。また、全くしないのは19.3%で、全国の16.6%よりも2.7ポイント高い。

〔グラフ-3:小 1日当たり携帯・スマホ使用時間〕



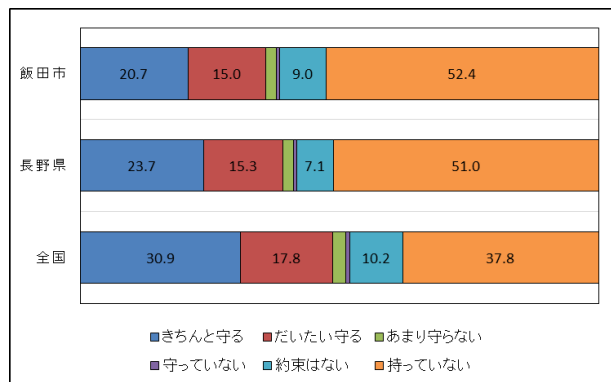
〔グラフ-4:中 1日当たり携帯・スマホ使用時間〕



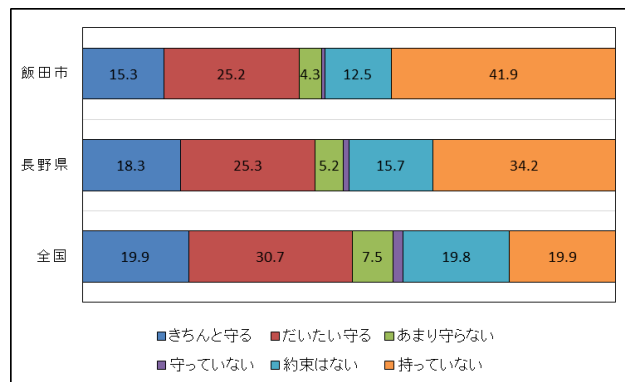
グラフ3,4は、1日当たりどのくらい携帯電話やスマートフォンで、ゲームを除いて通話やメール、インターネットをしているか尋ねたものである。小学校では、30分以上しているが20.5%で、全国の32.7%よりも12.2ポイント低い。また、持っていないのは55.5%で、全国の36.7%よりも18.8ポイント高い。

中学校では、30分以上しているが49.9%で、全国の66.3%よりも16.4ポイント低い。また、持っていないのは33.2%で、全国の16.1%よりも17.1ポイント高い。

〔グラフ-5:小 携帯・スマホ、家人との約束を守る〕



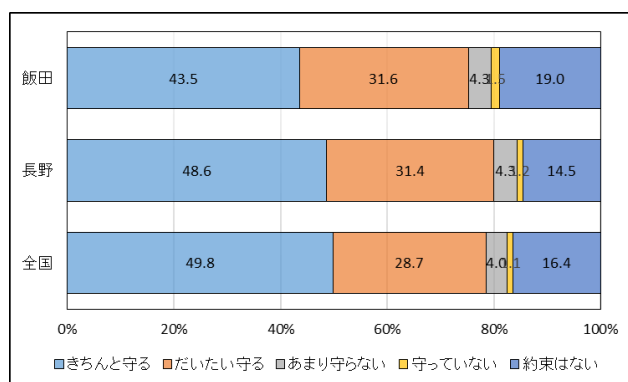
〔グラフ-6:中 携帯・スマホ、家人との約束を守る〕



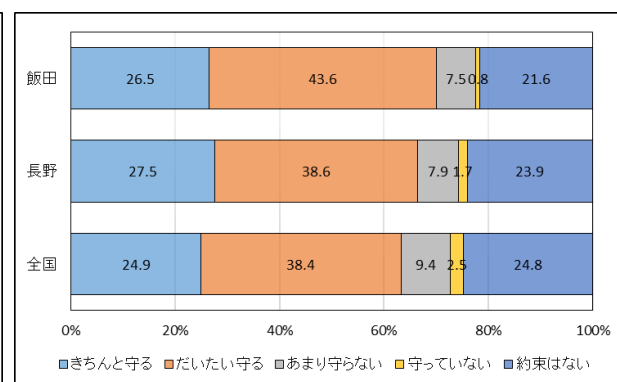
グラフ 5, 6 は、携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人と約束したことを守っているか尋ねたものである。小学校では、約束を守る（きちんと守るとだいたい守るの合算）が 35.7%である。また、持っていないは 52.4%で、全国の 37.8%よりも 14.6 ポイント高い。

中学校では、約束を守る（小学校に同じ）が 40.5%である。また、持っていないは 41.9%で、全国の 19.9%よりも 22.0 ポイント高い。

〔グラフ-⑤:小 携帯・スマホ、家人との約束を守る〕



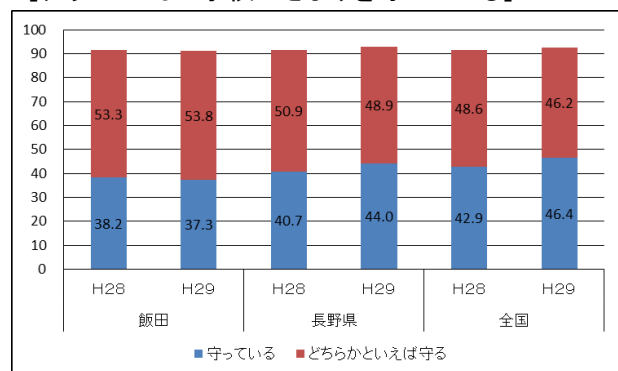
〔グラフ-⑥:中 携帯・スマホ、家人との約束を守る〕



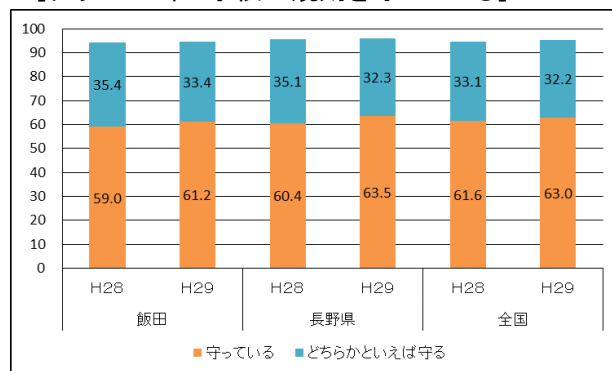
グラフ⑤⑥は、前出の質問で、携帯・スマホを持っている児童生徒を 100 として割合をみたものである。小学校では、約束を守るが 75.1%で、全国の 78.5%よりも 3.4 ポイント低い。また、「約束はない」は 19.0%で、全国の 16.4%よりも 2.6 ポイント高い。

中学校では、約束を守るが 70.1%で、全国の 63.3%よりも 6.8 ポイント高い。また、「約束はない」は 21.6%で、全国の 24.8%よりも 3.2 ポイント低い。

〔グラフ-7:小 学校のきまりを守っている〕



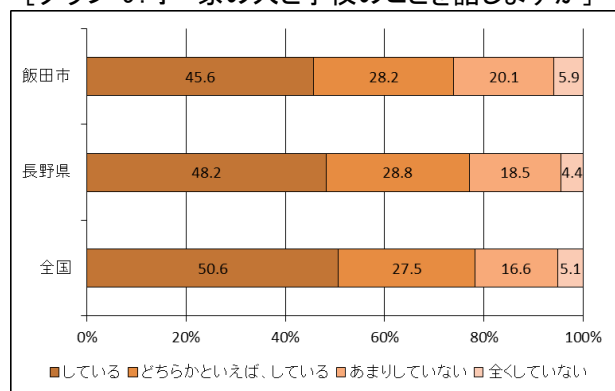
〔グラフ-8:中 学校の規則を守っている〕



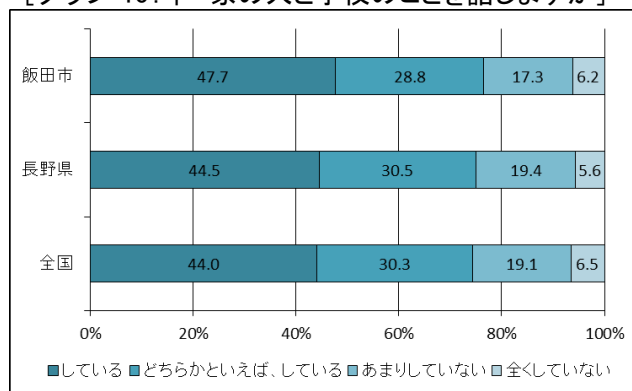
グラフ 7, 8 は、規範意識に関する質問である。平成 29 年度、小学校では、学校のきまりを守る（きちんと守るとどちらかといえば守るの合算）が 91.1%で、全国の 92.6%と同程度である。

同年度、中学校でも、学校の規則を守るが 94.6%で、全国の 95.2%と同程度である。

〔グラフ-9:小 家の人と学校のことを話しますか〕



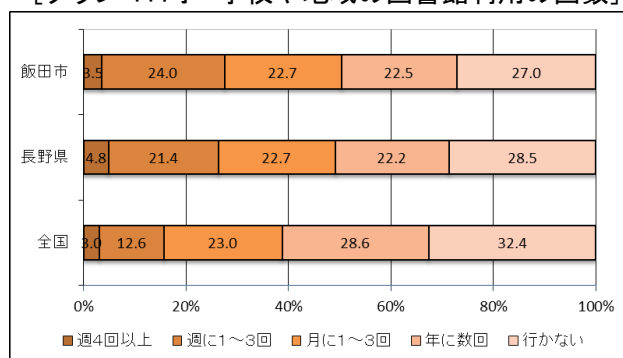
〔グラフ-10:中 家の人と学校のことを話しますか〕



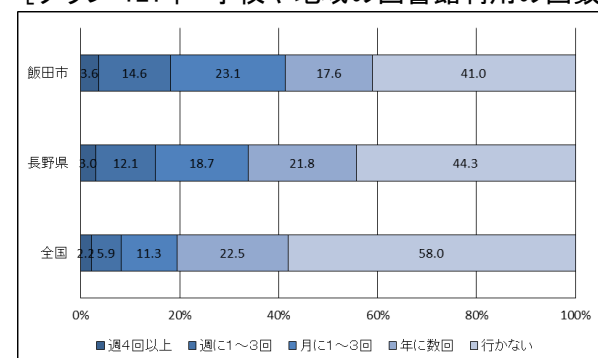
グラフ 9, 10 は、兄弟姉妹を除く家族と学校での出来事について話をするか尋ねたものである。小学校では、肯定的な回答（している、どちらかといえば、しているの合算）が 73.8%と全国の 78.1%よりも 4.3 ポイント低い。

中学校では、肯定的な回答(小学校に同じ)は 76.5%で、全国の 74.3%を 2.2 ポイント上回った。

〔グラフ-11:小 学校や地域の図書館利用の回数〕



〔グラフ-12:中 学校や地域の図書館利用の回数〕



グラフ 11, 12 は、昼休みや放課後、学校が休みの日に、図書館にどのくらい行くか尋ねたものである。小学校では、週に 1 回以上利用しているが 27.5%で、全国の 15.6%よりも 11.9 ポイント高い。ほとんどまたは全く利用しないのは 27.0%で、全国の 32.4%よりも 5.4 ポイント低い。

中学校では、週に 1 回以上利用しているが 18.2%で、全国の 8.1%よりも 10.1 ポイント高い。ほとんどまたは全く利用しないのは 41.0%で、全国の 58.0%よりも 17.0 ポイント低い。

【4】基本的な生活習慣と日常生活に関して

テレビ等でゲームをしている時間は、全国と比べると小中学生ともに短い。また、携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットをしている時間も、小中学生ともに全国と比べると短い。これらのことから、ゲームやネットをしながら夜更かしする生活をしている児童生徒は、全国と比べて少ないことが予想される。一方、家の人と学校のことについて対話することは、小学生は全国と比べ、やや少なく、中学生は、家の人とよく話をする姿が伺える。ただし、小中学生とも、2割を超える子どもたちが、家の人とあまり話をしていない実態も見受けられる。

携帯電話やスマートフォンに関して、持っていない割合は、全国と比べ小中学生ともに高いが、家の人との約束を守る割合は、小学生が全国と比べやや低い。学校の規則を守る規範意識は、小中学生とも、全国と大きな差異がみられないので、携帯電話やスマートフォンに関して、親子がしっかりと向き合い、約束事を話し合うことが必要と思われる。

小中学生とも学校や休日の地域の図書館利用が、全国と比べ群を抜いて多いことがわかる。飯田市では、地域ぐるみで教育を推進し、特に平成 20 年度からは、「わが家の結いタイム」の啓発活動を通じて、①あいさつ、②会話、③お手伝い、④読書に力を入れて取り組んでいる。こうした取り組みの成果が、基本的な生活習慣や積極的な図書館利用などに表れているので、親子の会話、特に情報モラルに関する親子のかかわりを、より一層促していきたい。

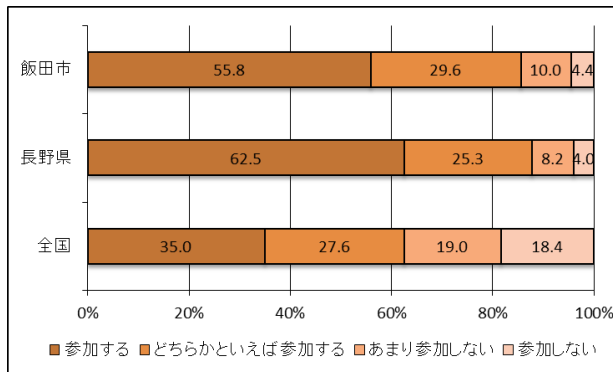
5 地育力による学校支援・学習支援に関して

飯田市は平成 19 年度から、「キャリア教育」や、「ふるさと学習」、「本物体験」を展開し、地域ぐるみで教育を推進している。^(※) 本年度からはさらにグローバルな視点を取り入れ、これらの教育を L G 飯田教育として整え、質的な向上を図ってきている。こうした「地育力による 未来をひらく こころ豊かな人づくり」の視点から、飯田市の子どもたちの姿を分析した。

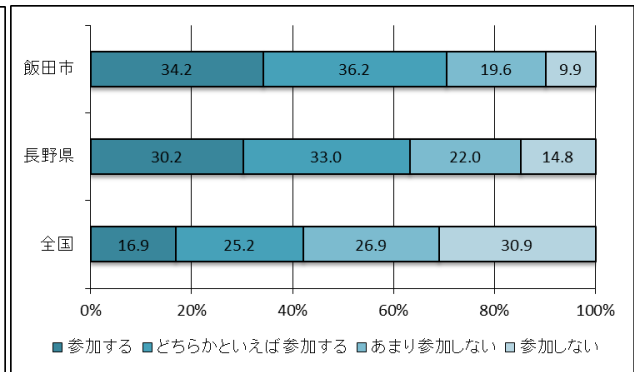
※地育力向上連携システム

(1) 児童生徒の地域へのかかわりについて

【グラフ-1:小 地域の行事に参加しますか】

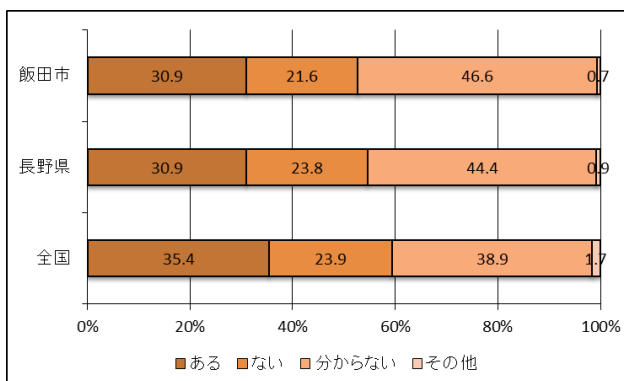


【グラフ-2:中 地域の行事に参加しますか】

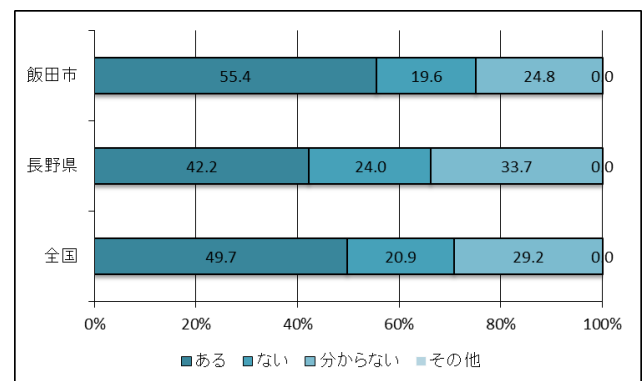


飯田市の児童生徒が地域の行事に参加する割合はグラフ 1, 2 のとおりである。グラフ 1 から小学生の肯定的な回答（参加する、どちらかといえば参加するの合算）は 85. 4%で、全国の 62. 6%を大きく上回っている。グラフ 2 から中学生の肯定的な回答（小学校に同じ）は 70. 4%で、全国の 42. 1%を小学生同様大きく上回っている。

【グラフ-3:小 ボランティア活動に参加】



【グラフ-4:中 ボランティア活動に参加】

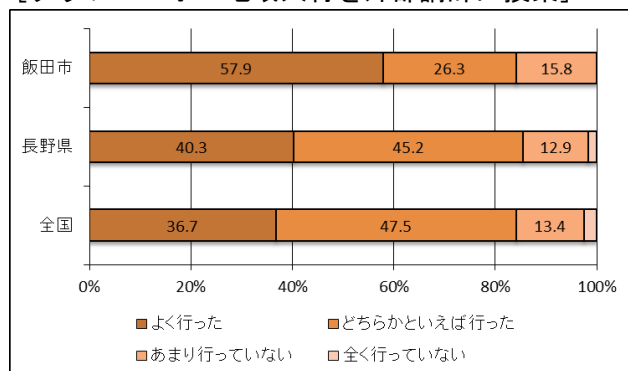


グラフ 3, 4 は、地域社会などでボランティア活動に参加したことはありますか、と尋ねたものである。小学生は 30. 9%と全国の 35. 4%よりも 4. 5 ポイント低い。中学生は、55. 4%と全国の 49. 7%より 5. 7 ポイント高く、ボランティア活動に対する中学生の意欲的な姿が感じられる。

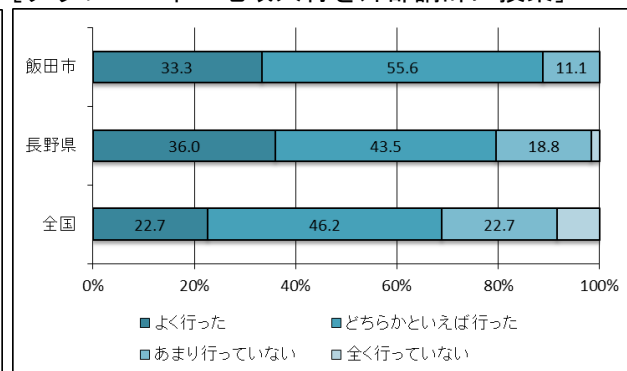
（２）地域の学校支援・学習支援について

飯田市は、地域の特色を生かし地域と共にある学校づくりを進めている。以下、学校長が回答した学校質問紙の調査結果から、地域の学校支援・学習支援について全国の調査結果と比較した。

〔グラフ-5：小 地域人材を外部講師に授業〕

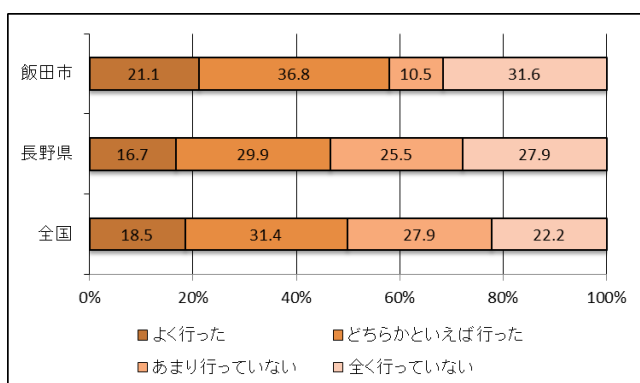


〔グラフ-6：中 地域人材を外部講師に授業〕

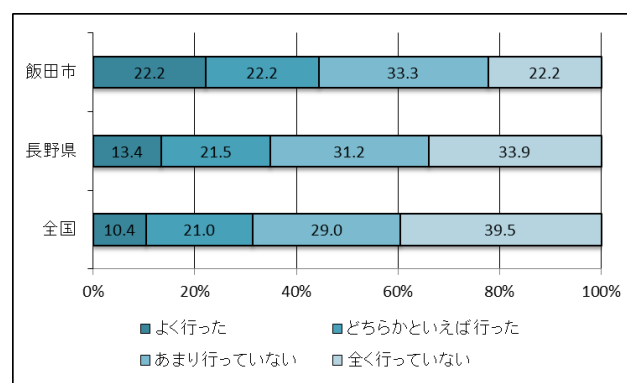


グラフ 5 から、小学校の「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った」割合は 84.2%と、昨年度とまた今年度の全国と同じである。グラフ 6 から、中学校の割合は 88.9%と全国の 68.9%より 20.0 ポイント高く、また、昨年の 55.5%から 33.4 ポイント増加した。これは昨年までの 2 年連続の減少から大幅の増加である。小中学校共に、年度による増減が見られる。

〔グラフ-7：小 ボランティアによる授業サポート〕

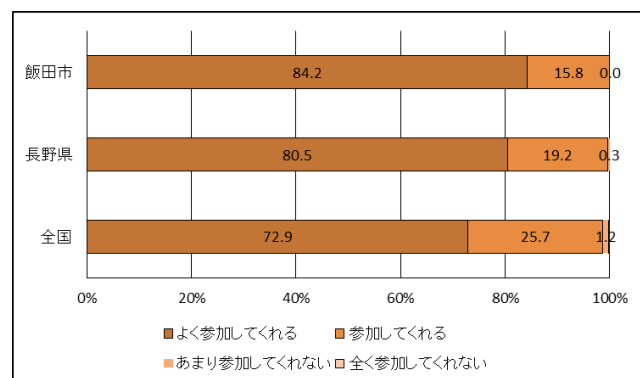


〔グラフ-8：中 ボランティアによる授業サポート〕

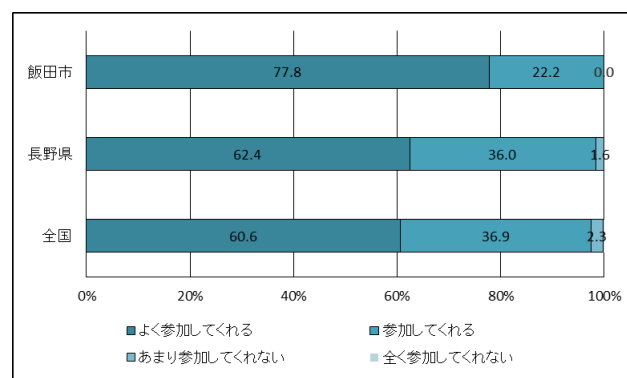


グラフ 7,8 は、「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」割合を尋ねている。小学校は 57.9%と全国の 49.9%を 8.0 ポイント上回った。中学校の割合は 44.4%と全国の 31.4%より 13.0 ポイント高い。

〔グラフ-9：小 ボランティアによる学校参加〕

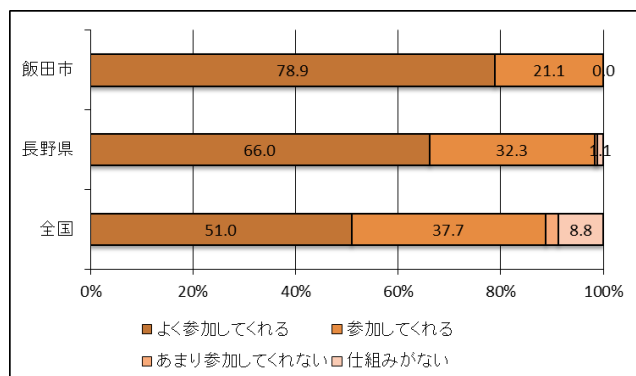


〔グラフ-10：中 ボランティアによる学校参加〕

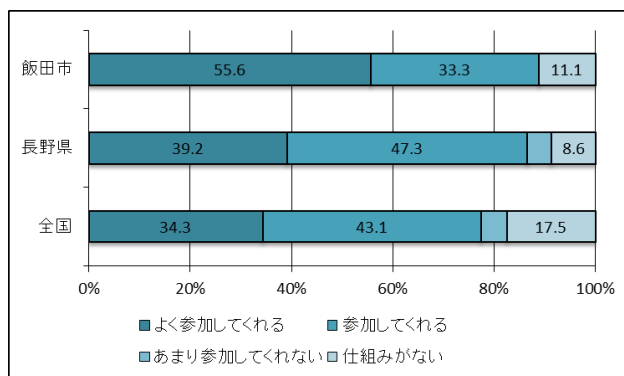


グラフ 9, 10 は、「PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる」割合を尋ねている。小学校は 100.0%と全国の 98.6%を 1.4 ポイント上回った。中学校の割合も 100.0%と全国の 97.5%より 2.5 ポイント高い。

【グラフ-11：小 学校支援の仕組みによる参加】

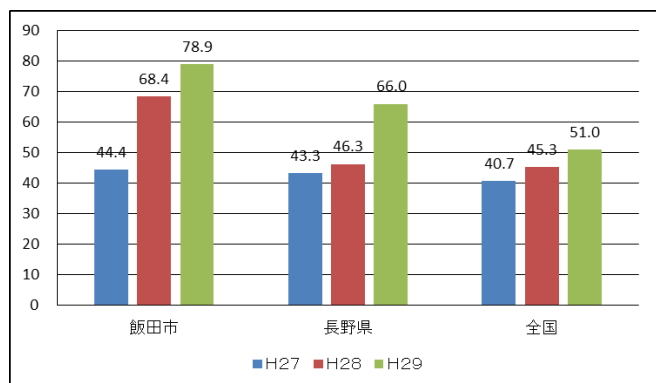


【グラフ-12：中 学校支援の仕組みによる参加】

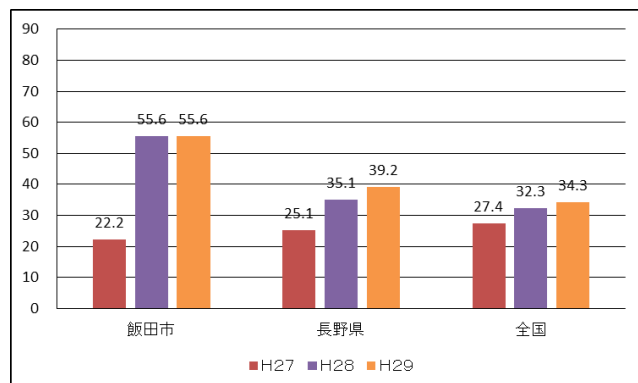


グラフ 11, 12 は、「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加する」割合を尋ねている。小学校は 100.0%と全国の 88.7%を 11.3 ポイント上回った。中学校の割合は 88.9%と全国の 77.4%より 11.5 ポイント高い。

【グラフ-13：小 活動への参加（H27～29）】



【グラフ-14：中 活動への参加（H27～29）】



グラフ 13, 14 は、前述の学校支援の仕組みによる保護者や地域の人参加のうち、「よく参加してくれる」割合について、平成 27 年度からの比較をしたものである。小学校は 78.9%と平成 27 年度の 44.4%から 34.5 ポイント増加し、中学校は昨年と同じ 55.6%であるが、平成 27 年度の 22.2%から 33.4 ポイントと大幅に増加した。小中共に、長野県や全国と比べ伸び幅が大きい。

【5】地育力による学校支援・学習支援に関して

地域社会でのボランティア活動参加は、小中学生とも全国と大きな違いはないが、地域行事へ参加は、全国と比べ、小中学生とも大変多く、積極的な参加がみられる。地域人材を外部講師として活用することは、小学校では昨年度並みの高い水準であり、中学校では昨年度までの減少傾向から大幅に増加した。さらにボランティアによる授業サポートも積極的な取組がみられる。今後、児童生徒の地域との関わりや地域の人材・資源を活用した学校の取組が、学校の教職員が変わっても恒常的・発展的に発展していくように、本年度から本格的にスタートした「飯田コミュニティスクール」の機能を十分に生かしていきたい。

学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加することが、最近 3 年間で、小中学校共に大幅に増加してきている。これは、各学校が、学校と地域が協働する仕組みづくりを推進してきた結果と言える。今後は、各校で進める「飯田コミュニティスクール」のよさを共有し合い、取組の質を高めることを目指していきたい。

Ⅳ 改善に向けた今後の取組について

(1) 授業改善について

- 学力向上『結い』プランに基づく授業づくりの浸透がみられ、さらに一層の徹底を図る。
 - ・「ねらい」…児童生徒が課題に対して自ら考え自分から取組むことが学力向上に大いにつながるものが改めて明らかとなった。校内研修を通して**学習問題**と**学習課題**に関する共通理解を図り、「ねらい」を明確にした授業づくりをより一層推進したい。
 - ・「めりはり」…単なる意見交換の場ではなく、教科等の「見方・考え方」：教科等の本質に迫る話し合い活動を設定して、児童生徒の**主体的・対話的で深い学び**となるように工夫したい。
 - ・「見とどけ」と「ねらい」…ともすれば単発的・断片的に陥りやすい日々の授業について、どの学習が後のどの学習につながるのか年間指導計画を常に意識して、「見とどけ」と「ねらい」を位置付ける授業に向けた改善に努めたい。
- 本報告書の各教科の指導改善の方向については、4人の分析サポーターが飯田市の学校や児童生徒の実態をもとに、**具体的な問題（授業場面）**を取り上げ、現状を鋭角的に分析した。本報告書のポイントを参考に、自校の指導改善のポイントを明らかにして、自校における**カリキュラム・マネジメント**の力を発揮しながら、授業改善に努めたい。

(2) 学校の取組について

- 小中共に100%の学校が、H28年度全国学調の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有している。学級づくりを基盤に、全教職員で指導改善に努めている様子が伺える。
さらに、次の視点から全教職員が連携・協働して改善プランの質を高め、教師一人一人の力量を高めたい。「1つの単元の学び（既習事項）が類似の別の単元の学びといかにつながるか、さらに、学年を越えてどうつながるか、教科等の間での資質・能力としてのつながりはどう成り立つのか」（無藤隆氏：白梅学園大）、各校の創意と工夫で、全校で検討したことを累積する。

(3) 家庭学習について

- 「1日1ページ」「3点セット」といった宿題から、**授業と連動した家庭学習**へと発想の転換が図られ、より効果的な家庭学習のあり方を研究し実践している学校がみられる。「**計画を立てて勉強する**」「**授業で学んだことをさらに自分で調べる**」等、児童生徒の自主性を育む家庭学習の工夫に努めたい。
- 多くの中学校区で家庭学習の内容や方法について「**9ヶ年の家庭学習の手引き**」を作成し、さらに、家庭と連携し家庭学習を強化する週間を設定する中学校区もみられる。家庭と学校で家庭学習の習慣化と内容の質的向上に向けた取組をさらに進めたい。

(4) 小中連携・一貫教育について

- 中学校区ごとの教師の合同研修や交流・連携（ここに地域の方が加わる中学校区もみられる）が、どの中学校区でもごく自然に行われている。また、**中学校区で教育目標の共有**も進んでいる。今後は、学力向上に向け、**小中一貫による指導を意識したカリキュラムづくり**を通した小中連携・一貫教育を進めたい。
- 最近3年間で、保護者や地域の方が学校の教育活動に参加することが大幅に増加している。
今後は、学校を核として、各校で進める「**飯田コミュニティスクール**」のよさを共有し合い、より一層、子どもたちの育ちや学校づくりに資することを目指していきたい。

1 教科に関する飯田市の結果分析について

- 小学校では、国語・算数共に全国平均を上回るか同水準であり、概ね良好な結果となった。国語Aでは上位層の割合が全国や長野県よりも高い。算数Bでは、中位層がやや高い。
- 中学校では、国語が全国平均を上回るか同水準であり、数学は全国平均をやや下回る結果となった。数学はA B共に下位層の割合がやや高い。
- 平成 26 年度の小学生が中学 3 年生として調査を受けたことを考えると、全国平均と比較すれば、国語Aでは伸びが見られるが、それ以外の科目では伸び悩む傾向が見られる。

2 教科の設問別正答率と指導改善の方向

- 小学校国語では、①根拠や理由を明確にして考えをまとめることや、②根拠に着目して友と考えを聞き合い考えを広げたり深めたりすることに留意し、授業改善を進めたい。
- 小学校算数では、一例として、身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現する学習などを日頃から大切にしたい。
- 中学校国語では、例えば、①根拠を明確にして自分の考え・思いをまとめることや、②既習事項の活用、情報選択及び文章構成を意識して表現することことに着目して、授業改善を進めたい。
- 中学校数学では、①基礎的・基本的な知識・技能に関する意味を理解する学習や、②日常的な事象等を数値化したり、数学的に解釈、表現、考察をしたりすることで、活用する力を伸ばす学習などを大切にしたい。

3 質問紙調査の回答からみえる飯田市の分析結果

- ①算数・数学の好き嫌いとは平均正答率に相関関係を見ることが出来る。児童生徒が自ら取組む「主体的・対話的な学び」と、授業内容が理解でき、算数・数学の本質に迫るおもしろさを感じ取る「深い学び」を実現する授業改善の視点をもって、日々の授業づくりを進めたい。
- ②学力向上『結い』プランによる授業づくりの浸透が各学校でみられ、さらに校内研修等を通して学習問題等に関する共通理解を図り、『結い』プランの更なる徹底を進めたい。
中学校区ごとの教師の合同研修や児童生徒の交流・連携が、どの中学校区でもごく自然に行われ、中学校区で教育目標の共有も進んでいる。今後は、学力向上に向け、小中一貫による指導を意識したカリキュラムづくりを通じた小中連携・一貫教育を進めたい。
- ③授業と連動した家庭学習へと発想の転換が図られ、より効果的な家庭学習のあり方を研究し実践している学校がみられる。「計画を立てて勉強する」等、児童生徒の自主性を育む家庭学習の工夫に努めたい。
- ④児童生徒の生活では、テレビゲームの時間、携帯電話・スマホの利用時間、家族の会話、図書館利用等の項目をピックアップし分析したところ、ゲームやネットをしながら夜更かしする児童生徒が全国と比べて少ないなど、「わが家の結いタイム」が浸透し、多くの児童生徒に基本的な生活習慣が身についている。今後、携帯電話やスマホに関して、親子がしっかりと向き合い、約束事を話し合うことが小学生の段階から必要である。
- ⑤学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方の学校教育活動への参加が、ここ 3 年間で大幅に増加している。今後は、各校で進める「飯田コミュニティスクール」のよさを共有し合い、より一層、子どもたちの育ちや学校づくりに資することを目指していきたい。